人間科学部

児童学科

人間科学部 児童学科

人材の養成および教育研究上の目的	人間科学部では，いのちを大切にし，平和と環境を保持し，人類の持続可能な発展をもたらすため，「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し，その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目的とする。（学則 第４条の２より）

カリキュラムポリシー　教育課程の編成方針

人間科学部では，児童学科を置き，以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

１．基礎的知識と基本的学習能力を獲得し，人間性の基盤となる豊かな教養を培うために，幅広い科目を設置する。

２．基礎ゼミ，特別研究，卒業研究などの少人数制の科目を通して，主体的に学ぶ姿勢を育成し，専門性を高めることを目指す。その中で柔軟な思考力，問題解決力，自己表現力，コミュニケーション力などを培う。

３．幼稚園教諭一種，保育士資格取得に必要な科目とともに，知識に偏重しない「体験型プログラム」を提供し，将来の保育者としての保育力・実践力を高める。

４．「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して，現代社会の多様な課題に取り組み，国際的な視点をもって探究する力を養う。

ディプロマポリシー　学位授与の方針

所定の年限在学し，以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に，学士（児童学）の学位を与える。

１．豊かな人間性に根差した学際的教養と，「知」の基盤となる横断的基礎知識，児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。

２．「体験型プログラム」を通して，豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ，「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。

３．児童学分野における真理探究のための主体的な学びから，柔軟な思考力，課題探究能力および問題解決力を修得している。

４．グローバルな視点から物事を考え，現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

備考

１．子どもの最善の利益を考慮し，子どもの健やかな成長を促す人間性，倫理観，責任と自覚を持ち，その能力を常に高めていく意欲を有する人材を育成することが到達目標である。また児童学科では，学生は幼稚園教諭一種，保育士資格の取得を目指している。

２．カリキュラムポリシー，ディプロマポリシーは，日本学術振興会の幼児教育・保育分野および文部科学省，厚生労働省が定める幼稚園教諭，保育士資格の要件を参照基準として準拠している。

３．系統的な教育が達成されるように，また学生が学びの連続性を確認できるように学修要覧に履修モデルを掲載し，学修の「見える化」に努めている。

４．児童学科のカリキュラムは，就学前教育・保育や子育て支援をめぐる社会的な要請と連動する形で構築している。子どもや子育てに関わる政策や制度の変化に照準をあて，それらと有機的連携が保たれるよう必要に応じてカリキュラムポリシー，ディプロマポリシーを改善できるシステム（カリキュラム改訂委員会等）を有している。

人間科学部について

学部長　井戸ゆかり

人間科学部 児童学科では，社会動向や多様なニーズに応え，乳幼児期の保育・教育および子育て支援等に適切かつ柔軟に対応できる人材の育成を目標として質の高い保育者養成に努めている。したがって，保育者としての資質，知識，技術を的確に身につけ，高い専門性をもった豊かな人間性と国際的なセンス，優れたコミュニケーション能力を実現するための教育課程の編成を行っている。基本的に児童学の５つの分野である児童福祉，児童発達・心理，児童保健，児童教育・保育，児童文化についての学識を深めるだけでなく，教養や語学能力の向上に努め，さらに，本学部独自の体験プログラムを通して実践力を養い，３年次の特別研究や４年次の卒業研究を通して，自らの力で課題発見・解決ができる力を養成する教育課程となっている。このような教育課程と並行して，学生が希望する具体的な進路に対応するために，国家資格である保育士や教育職員免許法に定められた幼稚園教諭１種免許の資格取得希望者に対応したカリキュラムも配置している。また，資格取得を希望せず児童関連の職業やその他の職種，大学院進学を希望する者にも対応できる編成にもなっている。

１．人間科学部 児童学科設置の趣旨及び社会的要請

近年，社会的に福祉や教育について様々な取り組みが行われている。特に，少子化，核家族化，女性の社会進出に伴い，乳幼児期の保育・教育，子育て支援の分野に対する社会的要請が高くなっている。現在のわが国における保育・教育行政は，社会の大きな変革に伴って，保育所等の整備拡充が特に都市部において重要な課題となっている。その要因の一つとして，男女共同参画社会の概念が一般化し女性の社会参加が自然のこととなり，家庭で担ってきた子育てを，保育所をはじめとする社会的機関に委託する家庭が増加するなどの社会構造の変化があげられる。

平成 15 年 11 月の児童福祉法の改正により，保育士は名称独占資格とされ国家資格となった。保育士は「専門的知識及び技術をもって，児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うこと」という使命が明記され，国家資格化に伴い，その責務の重さが明確化された。一方，幼稚園は平成 19 年 6 月の学校教育法の一部改正により，従来の条文の冒頭に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして」という文言が挿入され，幼稚園が義務教育の前段階の教育機関としての位置づけが明らかとなった。また，学校教育法第１条の学校の定義においても，幼稚園が各学校の冒頭に記載され，幼稚園の教育機関としての存在意義が高い。今後の幼児教育のあり方について，時代の趨勢に鑑みた社会の幼稚園に対する新しい視点からの改革が進められている。また，保護者の要請に対応するため，保育所では延長保育，一時保育など，多様な保育サービスが展開されるようになってきた。同様に，幼稚園でも満３歳児の就園や教育時間終了後の預かり保育の制度が導入されている。さらに，認定こども園の制度が平成 18 年に施行され，内閣府によれば，平成 29 年４月 1 日には全国で 5,081 となっている。平成 27 年 4 月からは，平成 24 年 8 月に成立した子ども・子育て関連 3 法に伴い，子ども・子育て支援新制度がスタートし，幼保連携型認定こども園では保育教諭として保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を持ち合わせている保育者が求められている。

近年は保護者が安心して子育てができるよう保護者を支援していくことも保育者の重要な役割となっており，社会の動向や保育・幼児教育の現場の多様なニーズに応えられる保育者養成をめざし，本学部では常に教育課程の見直しをはかっている。また，外国籍の親子も増えており，国際的な広い視点から次世代を見据えた柔軟性の高いカリキュラムが求められるようになり，それらにも適応できる取り組みを積極的に行っている。海外研修や海外の大学との交流は見識を広めるよい機会となっている。

就職に関しては多様なニーズに応え，その支援体制を強化し，毎年就職率 100%を目指してきめ細かな指導をし，目標を達成している。公務員（公立保育士を含む）への希望者が多く，例年高い合格率を維持しているいことも特筆すべき点である。また，保育者ばかりではなく，一般企業への就職希望者の指導も充実しており，学生の夢の実現に向けて支援している。卒業生は，それぞれの現場で活躍しており，とくに，在学中に培われたコミュニケーション能力，問題解決力の高さ等に対する社会からの評価は高い。

２．人材育成の目標

わが国の少子化による影響は経済産業や社会保障の問題に留まらず，国や社会の存続基盤にかかわる重要な問題である。一方で，地球環境問題は，私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題である。このような背景の中で，いのちを大切にし，生きる力を育み，平和と環境を堅持し，人類の持続可能な発展をもたらす社会が求められている。そこで，人間科学部では，保育・教育，発達・心理，文化，保健・福祉，環境等について総合的に理解し，その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を備えた，高い専門性を持つ自立した人材を養成する。すなわち，豊かで平和な社会生活の実現とその持続をめざして「未来を担う人間のこころ豊かな成長を科学する」を理念とし，「理論」と「実践」がしっかりと身についている人材や人間力の育成を第一に考える。

学位（児童学）については，修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに，次に掲げる知識や素質を身に付けた学生に対して授与される。①豊かな人間性に根差した学際的教養と，「知」の基盤となる横断的基礎知識，児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。②「体験型プログラム」を通して，豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ，「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。③児童学分野における真理探究のための主体的な学びから，柔軟な思考力，課題探究能力および問題解決力を修得している。④グローバルな視点から物事を考え，現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

３．人間科学部 児童学科での学びの特色

人間科学部 児童学科では社会のニーズに応えた質の高い人材養成を行っている。授業において，アクティブ・ラーニング，PBL（問題解決型授業）などを導入し，その他にもさまざまな直接体験を通した教育を行っている。それは，特に保育者を目指す学生にとって，子どもに必要とされる自主性・創造性を育てるために，環境などを通して保育・教育を実践できる力を培うことにつながっている。

本学部では，以下の 4 つの方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。①基礎的知識と基本的学習能力を獲得し，人間性の基盤となる豊かな教養を培うために，幅広く科目を履修できるよう教養科目の全学共通化を図る。②幼稚園教諭 1 種免許，保育士資格取得に必要な科目とともに，知識に偏重しない「子育て支援体験」「生活と自然体験」「異文化理解体験」「児童文化・自己表現体験」など「体験型プログラム」を提供し，将来の保育者としての保育力・実践力を高める。③基礎ゼミ，特別研究，卒業研究などの少人数制の科目を通して，主体的に学び，自主的に研究を進める姿勢を育成し，専門性を高めることを目指す。その中で，柔軟な思考力，問題解決力，自己表現力，コミュニケーション力などを培う。④「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して，ＥＳＤ(持続可能な開発のための教育)など今日的課題に取り組み，国際的な視野からも探究する力を養う。

学びの特色としては，他大学での取り組みの先駆となった独創的な以下の 4 つの体験型プログラムを有している。

（1）生活と自然体験

子どもは五感を駆使して自然とかかわり，いろいろな発見をし，感動する。1 年次配当科目の「幼児の生活と自然環境（演習）」において，日常の生活の中で感性を豊かにする体験をした上で，大学近くの自然豊かな等々力渓谷などで自然環境に親しみ，「気づくこと」「感じること」を会得する。また，2 年次配当科目である「食農文化と子育て（演習）」では，近隣の畑での農業体験を通して人が協同することの大切さと食育の基本概念を学ぶ。食農文化は，幼児期からの心の教育として大切であり，いのちの大切さ，作物を栽培する楽しさ，収穫の喜び，人と自然の調和等を習得すると同時に，生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培う。

（2）子育て支援体験

学部内施設の子育て支援センター『ぴっぴ』を活用した体験学習は，本学部の大きな魅力となっている。『ぴっぴ』は全国の大学に先駆けて独自に創設された「親子の遊び場」であり，地域社会に開放されている。利用者は 1 日 100 名以上であり，親と子の遊び場であるばかりでなく，親同士のコミュニケーションの場ともなっている。平成 30 年度には，

利用者が延べ 30 万人を越える予定である。このような保育現場で 2 年生以上の学生は，「子育て支援演習」を通して学内において日常的に研修することができる。2 年生から 4 年生にかけて， 親子を観察し，親子とかかわり，保護者支援のニーズが高まる中，高い専門性をもった地域の子育て支援者になれるよう指導している。なお，この『ぴっぴ』の活動を活用した教育プログラムは，わが国の保育士養成施設や文部科学省，厚生労働省などの行政からも注目され，全国からの見学者も多く，学部におけるユニークな取り組みとしてだけでなく大学全体の評価を高める要因となっている。平成 28 年度に実施された大学基準協会での調査においても，高い評価を得た。

（3）異文化理解体験

社会のグローバル化に対応するため，英語力を強化すると同時に他国語「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「イタリア語」「中国語」「アラビア語」「韓国語」の科目を配当し，受講することができる。また，教養科目の「国際化と異文化理解」,「日本文化の伝承」をはじめとしてさまざまなグローバル化に対応した教養科目を配置している。平成 22 年にニュージーランドのカンタベリー大学と大学間協定を締結，また平成 26 年にはオーストラリアのウーロンゴン大学教育学部と大学間協定を締結し,2 年次科目の海外研修にて春休み期間に現地での幼児教育研修や学生の交換プログラム，学術的交流などが行われている。その他，毎年，国内外の著名な研究者等を招聘し，学術講演会を開き，異文化理解の一助になっている。さらに，平成 28 年度より TAP に参加し，グローバルな人材育成を推進している。

（4）児童文化，自己表現体験

特別施設「スタジオ・シアター」は国内の児童関連学部でも例を見ない本格的な多目的施設で，そこでは児童演劇，ドラマ，ダンスなどの表現に関する演習授業が行われる。具体的には，「保育の表現技術（身体表現）（言語表現）」「保育内容表現指導法」「幼児の身体表現指導法」などの科目である。これらの教育内容は，就学前教育を遂行する保育者としての感性を高め，コミュニケーション力と自己表現力豊かな人材育成に資するものである。

このように，本学部においては，子どもや保護者とかかわるための基本である豊かなコミュニケーション力を，さまざまな場面で高める機会を設定している。さらに,「インターンシップ」では，総合的なコミュニケーション力が要求される。また，直接子どもや保護者とかかわることができる様々な「ボランティア」活動や国内外におけるインターンシップを積極的に奨励し，これら就学前教育を担う保育者の最大の資質の一つであるコミュニケーション力を涵養すると同時に，理論と実践を兼ね備えた保育者，高い人間力を養成することに尽力している。

H30 人間科学部 児童学科 教育課程表 1

○印必修　△印選択必修

	区分	科目群	授業科目		必選の別	単位数	資格区分 保育士	資格区分 幼免	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	担当者（平成３０年度現在）	科目ナンバリング
001	教養科目	人文学系	哲学(1)	G 講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-111
002			哲学(2)	G 講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-112
003			倫理学(1)	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-113
004			倫理学(2)	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-114
005			倫理学	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-115
006			文化人類学	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-116
007			視覚芸術史(1)	G 講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-117
008			視覚芸術史(2)	G 講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-118
009			デザイン概論(1)	G 講義		2	—	—			2						他キャンパス開講	00-211
010			デザイン概論(2)	G 講義		2	—	—				2					他キャンパス開講	00-212
011			日本文学	G 講義		2		—			2						木内英実	00-213
012			日本史(1)	G 講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-11F
013			日本史(2)	G 講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-11G
014			西洋史(1)	G 講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-11A
015			西洋史(2)	G 講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-11B
016			民俗学	G 講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-11C
017			宗教学	G 講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-11E
018		社会科学系	社会学(1)	講義		2	—	—	2								塚田修一	00-121
019			社会学(2)	講義		2	—	—		2							塚田修一	00-122
020			社会学入門	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-123
021			経済学(1)	講義		2	—	—	2								伊藤潤平	00-124
022			経済学(2)	講義		2	—	—		2							伊藤潤平	00-125
023			日本経済論	G 講義		2	—	—					2				他キャンパス開講	00-321
024			政治学(1)	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-126
025			政治学(2)	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-127
026			日本の政治	G 講義		2	—	—			2						他キャンパス開講	00-221
027			国際関係論(1)	G 講義		2	—	—	2								本多倫彬	00-128
028			国際関係論(2)	G 講義		2	—	—		2							本多倫彬	00-129
029			日本国憲法	講義		2		○		2							髙橋明弘	00-12A
030			法学	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-12B
031			民法	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-12C
032			西洋経済史	G 講義		2	—	—	(2)	2							他キャンパス開講	00-12E
033			人文地理学	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-12F
034			現代中国論	G 講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-12G
035		人間科学系	教育学(1)	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-131
036			教育学(2)	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-132
037			スポーツ・健康論	講義		2	—	—	2	(2)							他キャンパス開講	00-133
038			心理学(1)	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-136
039			心理学(2)	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-137
040			心理学概論	講義		2		—	2								森山徹	00-138
041			心理学入門	講講		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-139
042			社会とジェンダー	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-13A
043			国際化と異文化理解	G 講義		2		—						2			山中美子	00-331
044			日本文化の伝承	G 講義		2	—	—		2							榎本宗白	00-13B
045			論理学(1)	講義		2	—	—	2								他キャンパス開講	00-141
046			論理学(2)	講義		2	—	—		2							他キャンパス開講	00-142

「教養科目」区分（科目群「その他」を除く）から○印必修を含め６単位以上修得／「－」科目は対象外

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目

「教養科目」において，「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し，

国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付している。

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し，100 分を 2 時間（1 コマ）としてカウントする。
単位数の計算もこの原則に基づいて行う（「1-2. 単位数」の項参照）。

	区分	科目群	授業科目		必選の別	単位数	資格区分 保育士	資格区分 幼免	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	担当者（平成３０年度現在）	科目ナンバリング
047	教養科目	自然・情報科学系	生活とメディア	講義		2		―			2						松浦李恵	00-242
048			公衆衛生学	講義		2		―						2			早坂信哉	00-341
049			現代の物理	講義		2	―	―			2						他キャンパス開講	00-143
050			科学技術と社会	講義		2	―	―				2					他キャンパス開講	00-241
051			情報処理演習(1)	演習	○	1	○	○	2								須藤智亜紀	00-14A
052			情報処理演習(2)	演習	○	1	○	○		2							須藤智亜紀	00-14B
053			情報処理演習(3)	演習		1		―			2						須藤智亜紀	00-243
054			情報処理演習(4)	演習		1		―				2					須藤智亜紀	00-244
055		その他	PBL による産学協働演習	演習		2	―	―	2								他キャンパス開講	00-151
056			ボランティア(1)	実習		1	―	―									早坂信哉	00-951
057			ボランティア(2)	実習		1	―	―									早坂信哉	00-952
058			教養ゼミナール(1)	演習		2	―	―	2	(2)	教養ゼミナールと教養特別講義は，各４単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。それぞれ４単位を超える同科目の単位は，卒業要件に算入できない。科目詳細は，シラバスを参照すること。						別指定	00-953
059			教養ゼミナール(2)	演習		2	―	―	2	(2)							別指定	00-954
060			教養特別講義(1)	講義		2	―	―	2	(2)							別指定	00-955
061			教養特別講義(2)	講義		2	―	―	2	(2)							別指定	00-956
062	外国語科目	英語科目	Study Skills	演習	○	1		―	2								杉本裕代,染谷昌弘	02-111
063			Communication Skills(1)	演習	○	1	○	○	2								クレイネス,出野由紀子	02-211
064			Communication Skills(2)	演習	○	1	○	○		2							クレイネス,出野由紀子	02-212
065			Reading and Writing(1)	演習	○	1		―		2							杉本裕代,染谷昌弘	02-213
066			Reading and Writing(2)	演習	○	1		―			2						浅川友幸,北村豊	02-214
067			TOEIC Preparation	演習	○	1		―				2					浅川友幸,北村豊	02-215
068			英語でﾗｲﾃｨﾝｸﾞ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-311
069			ｱｶﾃﾞﾐｯｸ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｾﾐﾅｰ	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-312
070			Advanced TOEIC	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-313
071			英語読解力養成	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-216
072			海外・特別選抜セミナー	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-314
073			英語文法トレーニング	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-217
074			英語発音・聴解トレーニング	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-218
075			キャリア・イングリッシュ	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-315
076			サバイバル・イングリッシュ	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-316
077			ニュースを英語で読む	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-317
078			スポーツで学ぶ英語	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-318
079			映画で学ぶ英語	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-319
080			文学で学ぶ英語	演習		2	―	―	2	(2)							杉本裕代	02-31A
081			音楽で学ぶ英語	演習		2	―	―	2	(2)							杉本裕代	02-31B
082			Cultural Comparison	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-31C
083			Modern Society	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-31D
084			科学技術英語	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-31E
085			外国語特別講義(1)	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-911
086			外国語特別講義(2)	演習		2	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-912
087		英語以外の外国語科目	ドイツ語(1)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-121
088			ドイツ語(2)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-221
089			フランス語(1)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-122
090			フランス語(2)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-222
091			スペイン語(1)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-123
092			スペイン語(2)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-223
093			イタリア語(1)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-124
094			イタリア語(2)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-224
095			中国語(1)	演習		1	―	―	2	(2)							中川友	02-125
096			中国語(2)	演習		1	―	―	2	(2)							中川友	02-225
097			アラビア語(1)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-126
098			アラビア語(2)	演習		1	―	―	2	(2)							他キャンパス開講	02-226
099			韓国語(1)	演習		1	―	―	2	(2)							長渡陽一	02-127
100			韓国語(2)	演習		1	―	―	2	(2)							長渡陽一	02-227

H30 人間科学部 児童学科 教育課程表 2

○印必修　△印選択必修

	区分	科目群	授業科目		必選の別	単位数	資格区分 保育士	資格区分 幼免	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	担当者（平成３０年度現在）	科目ナンバリング
101	体育科目		人間と健康	講義	○	2	○	―	2								高橋うらら	01-113
102	体育科目		健康と運動(1)	実技		1	○	○	2								長堂益丈	01-114
103	体育科目		健康と運動(2)	実技		1	○	○		2							高橋うらら	01-115
104	専門科目		保育原理	講義	○	2	○	―	2								横山草介，浅見佳子	51-221
105	専門科目		教育原理	講義	○	2	○	○			2						横山草介	51-224
106	専門科目		児童家庭福祉(1)	講義	○	2	○	―	2								野澤義隆	51-261
107	専門科目		社会福祉	講義		2	○	―				2					野澤義隆	51-267
108	専門科目		相談援助	演習		2	○	―			2						浦野耕司	51-265
109	専門科目		社会的養護(1)	講義		2	○	―			2						野澤義隆	51-264
110	専門科目		保育者論	講義		2	○	○						2			園田巌	51-34D
111	専門科目		発達心理学(1)	講義	○	2	○	○		2							井戸ゆかり	51-223
112	専門科目		教育心理学	演習		2	○	○				2					紺野道子	51-322
113	専門科目		子どもの保健(1)	講義		2	○	―			2						早坂信哉	51-371
114	専門科目		子どもの保健(2)	講義		2	○	―				2					早坂信哉	51-372
115	専門科目		子どもの保健(3)	演習		1	○	―				2					玉内裕美	51-373
116	専門科目		子どもの食と栄養	演習		2	○	―		2							早坂信哉・西中川まき	51-271
117	専門科目		家庭支援論	講義		2	○	―			2						野澤義隆	51-266
118	専門科目		カリキュラム論	講義		2	○	○						2			横山草介	51-34E
119	専門科目		保育内容総論	演習		2	○	○			2						原田留美	51-341
120	専門科目		保育内容健康指導法	演習		2	○	○						2			高橋うらら	51-346
121	専門科目		保育内容人間関係指導法	演習		2	○	○			2						大野和男	51-342
122	専門科目		保育内容環境指導法	演習		2	○	○					2				大野和男	51-345
123	専門科目		保育内容言葉指導法	演習		2	○	○				2					原田留美	51-343
124	専門科目		保育内容表現指導法	演習		2	○	○				2					小林由利子	51-344
125	専門科目		乳児保育(1)	演習		2	○	―		2							井戸ゆかり，亀田佐知子	51-263
126	専門科目		障害児保育	演習		2	○	―				2					園田巌	51-268
127	専門科目		社会的養護内容	演習		2	○	―						2			園田巌	51-365
128	専門科目		保育相談支援	演習		2	○	―						2			園田巌	51-366
129	専門科目		保育の表現技術(音楽表現)(1)	演習		2	○	○	2								岩田,安藤,上野,小寺,江口	51-241
130	専門科目		保育の表現技術(音楽表現)(2)	演習		2	○	○		2							岩田,安藤,上野,小寺,江口	51-242
131	専門科目		保育の表現技術(造形表現)(1)	演習		2	○	○	2								大塚習平	51-244
132	専門科目		保育の表現技術(造形表現)(2)	演習		2				2							大塚習平	51-245
133	専門科目		保育の表現技術(身体表現)	演習		2	○	○			2						高橋うらら	51-246
134	専門科目		保育の表現技術(言語表現)	演習		2	○	―	2								小林由利子	51-243
135	専門科目		**保育実習(1)(保育所･施設)**	実習		4	○	―					4				園田,紺野,野澤,原田	51-3B3
136	専門科目		保育実習指導(1)(保育所)	演習		1	○	―					2				園田巌，紺野道子	51-3B4
137	専門科目		保育実習指導(1)(施設)	演習		1	○	―					2				野澤義隆,原田留美	51-3B5
138	専門科目		**保育実習(2)(保育所)**	実習		2	△	―							2		園田巌	51-4B5
139	専門科目		保育実習指導(2)(保育所)	演習		1	△	―							2		園田巌	51-4B3
140	専門科目		**保育実習(3)(施設)**	実習		2	△	―							2		野澤義隆	51-4B6
141	専門科目		保育実習指導(3)(施設)	演習		1	△	―							2		野澤義隆	51-4B4
142	専門科目		保育･教職実践演習(幼稚園)	演習		2	○	○								2	根津,紺野,園田,横山	51-4B7

※保育実習の履修組合せ

	実　習	実習準備授業科目	開講時期・実習時期
○必修として「保育所」「施設」の両方の実習を行う	保育実習(1)(保育所･施設)	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)	３年前期
△選択必修として「保育所」または「施設」のどちらかの実習を行う。	保育実習(2)(保育所)	保育実習指導(2)(保育所)	４年前期
	保育実習(3)(施設)	保育実習指導(3)(施設)	

科目ナンバリング：　YY-LMD

YY:科目区分	51:児童学科 専門科目				
L:レベル	1:入門	2:基礎	3:応用	4:卒業研究	5:その他
M:科目群	1:児童学研究	2:保育･心理	3:体育	4:保育内容	5:情報
	6:福祉	7:保健	8:文化	9:国際･他文化	A:キャリア
	B:実習				
D:識別番号					

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し，100 分を 2 時間（1 コマ）としてカウントする。
単位数の計算もこの原則に基づいて行う（「1-2. 単位数」の項参照）。

	区分	科目群	授業科目		必選の別	単位数	資格区分 保育士	資格区分 幼免	週時間数 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	担当者（平成３０年度現在）	科目ナンバリング
143	専門科目		社会的養護(2)	講義		2		―						2			野澤義隆	51-364
144	専門科目		児童家庭福祉(2)	講義		2		―		2							野澤義隆	51-262
145	専門科目		発達心理学(2)	演習		2		○			2						紺野道子	51-321
146	専門科目		臨床心理学	演習		2		―							2		紺野道子	51-421
147	専門科目		乳児保育(2)	演習		2		―					2				浅見佳子	51-361
148	専門科目		保育の表現技術(音楽表現)(3)	演習		2					2						岩田,平岩,上野,小寺,島内,杉浦	51-347
149	専門科目		児童文化	演習		2		―	2								河野優子	51-283
150	専門科目		子どもと昔話	講義		2		―						2			原田留美	51-286
151	専門科目		手話	演習		2		―	2								新井孝昭	51-191
152	専門科目		幼児の生活と遊び	演習		2	―	○	2								根津明子，大野和男	51-281
153	専門科目		児童文学	演習		2	―	○			2						木内英実	51-285
154	専門科目		子どもと数	演習		2	―	○			2						新井孝昭	51-284
155	専門科目		教育学概論	講義		2	―			2							横山草介	51-222
156	専門科目		幼児の造形表現指導法	演習		2	―	△					2				大塚習平	51-34B
157	専門科目		幼児の身体表現指導法	演習		2	―	△					2				高橋うらら	51-34A
158	専門科目		幼児の音楽表現指導法	演習		2	―	△					2				岩田遵子	51-349
159	専門科目		幼児教育方法論	講義		2	―	○					2				原田留美	51-34C
160	専門科目		幼児理解の理論と方法	演習		2	―	○					2				井戸ゆかり，亀田佐知子	51-362
161	専門科目		教育相談	講義		2	―	○					2				紺野道子	51-363
162	専門科目		**幼稚園教育実習(1)**	実習		2	―	○				2					木内英実,大塚習平	51-3B1
163	専門科目		幼稚園教育実習指導(1)	演習		1	―	○				2					木内英実,大塚習平	51-3B2
164	専門科目		**幼稚園教育実習(2)**	実習		2	―	○						2			木内英実,大塚習平	51-4B1
165	専門科目		幼稚園教育実習指導(2)	演習		1	―	○						2			木内英実,大塚習平	51-4B2
166	専門科目		キャリアデザイン入門	演習		2	―	―				2					井戸ゆかり	51-1A1
167	専門科目		キャリアデザイン(1)	演習		1	―	―					1				木内英実	51-2A1
168	専門科目		キャリアデザイン(2)	演習		1	―	―						1			木内英実	51-2A2
169	専門科目		インターンシップ(1)	実習		1	―	―									木内英実	51-3A1
170	専門科目		インターンシップ(2)	実習		1	―	―									木内英実	51-3A2
171	専門科目		幼児の生活と自然環境	実習		2	○	―	2								根津明子，大野和男	51-282
172	専門科目		海外研修	演習		2	―	―				2					小林由利子	51-391
173	専門科目		子育て支援演習	演習		2	○	―			1	1	1	1	1	1	野澤義隆，根津明子	51-3B6
174	専門科目		食農文化と子育て(1)	演習		2	○	―			2						野村明洋	51-272
175	専門科目		食農文化と子育て(2)	演習		2		―				2					関山隆一	51-273
176	専門科目		児童学入門	講義	○	2		―	2								全教員	51-111
177	専門科目		基礎ゼミ	演習	○	2	○	―	2								全教員	51-211
178	専門科目		特別研究	演習	○	4	○	―					2	2			全教員	51-311
179	専門科目		卒業研究	演習	○	6	○	―									全教員	51-411

○印必修を含め15単位以上修得／「―」科目は対象外

※ △印いずれか１科目を選択必修

「―」は，資格取得要件としては対象外となる科目。
資格取得の詳細は，別途資格取得のための要綱を参照すること。

注　卒業必要単位数は下表のとおりとする。

合　計	１２４単位　以下を含むこと	
教養科目 外国語科目 体育科目	２０単位	右記を含むこと　○必修　１０単位
専門科目	９０単位	右記を含むこと　○必修　２２単位

履修要綱

履修要綱は本学学則第５章及び第８章に基づいて定められたものである。従って，学生は授業を受けるにあたっては，特にこれを熟読しなければならないものである。

１．単位について

１．単位制度

本学の教育課程は単位制度に基づいて編成されており，学修の基本でもあるので，単位制度の本質を十分に理解する必要がある。単位は履修した科目の学力が一定レベルに達したときに与えられるもので，そのレベルに達するためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり，予習，復習，宿題などの自学自習を必要とする。

大学の授業は講義，演習，実験，実習及び実技等の方法で行われ，各授業科目の単位数は，１単位の履修時間を教室内及び教室外を合せて４５時間として，学則第１８条の基準に従って計算されるが，本学では講義および演習については，２時間の授業に対して４時間の自学自習を行わせることを基準にしている。

なお，本学人間科学部を卒業するためには４年以上在学して総計１２４単位以上を修得しなければならない。

２．単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なるので，週１時限（２時間）の授業に対して与えられる単位数は次のとおりである。（学則第 18 条参照）

(1) 講義・演習

２時間の授業，４時間の自学自習，週１回半期１５週では，

（２＋４）×１５＝９０時間　９０÷４５＝２単位

通年３０週の場合は４単位

(2) 実験・実習・製図・実技

２時間の授業，１時間の自学自習，週１回半期１５週では，

（２＋１）×１５＝４５時間　４５÷４５＝１単位

ただし，授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については，その程度に応じて単位数を増加してある。

また，学則第１８条の２に基づき，各授業科目の授業は，１０週または１５週にわたる期間とするものの，教育上必要があり，かつ，十分な教育効果をあげる場合，この期間を変更する場合がある。科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが，詳細は授業時間表で確認すること。

３．単位の授与

各授業科目を履修した者に対して，試験（中間試験その他の評価を含む）によりその成果を判定した上で単位を与える。この場合の履修とは単位制度に基づくものであって，所定の単位を修得するためには必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論，定められた時間数の自学自習が行われていなければならない。

なお，履修したが合格点に達しないため単位を与えられなかった科目のうち，単位を修得しておかなければならない科目は，次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければならない。

２．授業科目について

１．科目の区分

授業科目はその内容により，「教養科目」「外国語科目」「体育科目」「専門科目」の各区分に分ける。それぞれに属する各授業科目については“教育課程表”に記載されているので同表を参照すること。

また，「保育士」資格および「幼稚園教諭１種免許状」取得のためには，別途，当該資格を取得するための履修要綱を参照し，これに基づき必要な単位を修得すること。

２．科目の種類

授業科目は必修科目，選択必修科目，および選択科目に分ける。その定義は次のとおりである。

(1) 必修科目……必ず履修しなければならない科目（教育課程表中の○印）

(2) 選択必修科目……学科で指定された科目の中から選択して履修しなければならない科目（教育課程表中の△印）

(3) 選択科目……自由に選択して履修できる科目（教育課程表中の無印）

なお，科目の選択は各自の履修上慎重な配慮を要するものなので，選択にあたっては必ず３－３の履修方針の作成の項を参照すること。

３．履修について

１．卒業の要件

本学を卒業するためには４年以上在学して，次の表に従ってそれぞれの区分の単位を修得する必要がある。なお，この表は各自の履修の基準になるので学年始毎に参照すること。

区　　分	卒　業　要　件	
教養科目	２０単位	必修科目（○印）１０単位を含む。
外国語科目		
体育科目		
専門科目	９０単位	必修科目（○印）２２単位を含む。
小　　計	１１０単位	
自由選択※	１４単位	※自由選択として，各区分の卒業要件を超える分を合算して１４単位以上修得しなければならない。
合　　計	１２４単位以上	

２．履修科目区分

教養科目　「教養科目」区分は，「外国語科目」「体育科目」区分とあわせて，２０単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」が必修であり，また，「幼稚園教諭１種免許状」取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」「日本国憲法」が必修となるので留意すること。

外国語科目　「外国語科目」区分は，「教養科目」「体育科目」区分とあわせて，２０単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格および「幼稚園教諭１種免許状」取得のためには「Communication Skills(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

体育科目　「体育科目」区分は，「教養科目」「外国語科目」区分とあわせて，２０単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格取得のためには「人間と健康」「健康と運動(1)」「同(2)」が必修であり，また，「幼稚園教諭１種免許状」取得のためには「健康と運動(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

専門科目　「専門科目」区分における，必要最少単位数は９０単位である。必修科目・選択必修科目等について留意すること。また，「保育士」資格および「幼稚園教諭１種免許状」取得のためには別表に従うこと。

自由選択　上記４区分の必要最少単位数の小計は１１０単位となるが，卒業要件を充たすには，各区分の必要最少単位数を超えた分を合算して１４単位以上取得しなければならず，この１４単位分を「自由選択」とする。これにより，卒業要件は合計１２４単位となる。

３．履修方針の作成

(1) 学期の始めに当たっては,「教授要目」を熟読するとともに入学した年度の教育課程表を充分理解した上で，各自一年間の履修方針を定めること。

(2) 当該年度に組まれている授業時間表に基づいて，必修科目，選択必修科目，選択科目の順に，履修方針に基づいて選択し，履修申告をしなければならない。

(3) 自学自習に多くの時間を要する単位制度のもとでは，授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することはむずかしいので，科目選択に当たっては，クラス担任教員等の助言を受けて，適正に選択することが必要である。

(4) 所属学年に組まれている授業科目はその学年で修得するよう努力すべきである。次の年度で再履修しようとしても授業時間や試験時間が重複して履修できない場合があるからである。また，学年進行に伴うカリキュラム変更等により，当該年度の開講をもって廃止となる場合や新規に開講する科目に振替える場合があるので，各自キャンパス内掲示板やポータルサイト等で充分に確認，注意をすること。

４．履修登録の流れ

履修登録とは，その学期に履修する科目を登録することである。登録はＷＥＢ上から指示された日までに必ず行うことが必要である。この手続を経ない科目は，受講の上，試験に合格しても単位は与えられない。以下は，履修登録に関する各学期の流れである。

(1) 履修科目の選択・調整期間
学期開始から履修登録までに１～２週間の期間がある。この期間は，前述３の履修方針にあわせて「学修要覧」「教授要目」等を参考にしながら，実際に授業に出席することで，自分の履修科目を選択し確定するためのものである。
なお，この期間に履修者を調整する科目もある。履修登録前に履修者を確定する場合もあるので，１週目の授業は特に重要である。

(2) 履修科目の登録
履修登録はＷＥＢ上から行う。なお，登録期間後の履修科目の追加はできない。また，本人の不備による履修登録の誤りは，すべて自己の責任となるので，特に慎重な注意が必要である。
他学部や他学科，他大学などの科目を履修する場合には，ＷＥＢ上での登録ではなく，別途所定用紙（特別履修科目履修申告書など）により提出する。科目によっては担当者の許可印を必要とする場合もある。

(3) 履修登録の確認
履修登録の１～２週間後，履修科目が正しく登録できているか否かを確認する機会を設けている。この機会では登録した科目の履修辞退に応じることができる。

(4) クォーター開講科目の履修登録
科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが，履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期ごとに行う必要があるので注意すること。

(5) 大学院先行履修制度
本大学では，学部在学中に，大学院修士課程の授業科目を先行履修することができる。（ただし在学年次，受講資格等制限がある）。
なお，本大学院に進学後，各研究科各専攻において，修得した単位を「１０単位」を超えない範囲で認定することができる。申請手続等詳細については，事務局で確認すること。

５．習熟度別クラス編成・履修免除

英語科目においては， 入学後オリエンテーション期間内で実施する基礎学力調査の結果により，習熟度別に編成したクラスを指定する場合や，履修を免除する場合がある。詳細は，別途配布される「授業時間表」の注意事項を参照すること。

６．履修登録単位数の制限

(1) 履修登録単位数の上限
１学期あたりの履修登録単位数は２４単位を上限とする。
なお，通年科目については，単位数に１／２を乗じた値を１学期分の単位数とする。

(2) 履修登録単位数の上限対象外とする科目
「保育士」資格および「幼稚園教諭１種免許状」取得のために必要な科目（教育課程表の「資格区分」において「○」「△」印の科目）については，履修登録単位数の制限内に含まない。
また，「集中講義系科目」「学外実習系科目」「教職に関する科目」「卒業要件非加算科目」についても，履修登録単位数の制限内に含まない。具体的な科目については，事務局に確認すること。

７．履修登録上の注意事項

(1)「履修登録」
「履修登録」は，ＷＥＢ上から行う。他学部，他大学などの科目を履修する場合は，ＷＥＢ上での登録ではなく別途所定用紙による登録が必要である。

(2)“再履修”とは
過去に不合格になった科目を，再度履修することを“再履修”として扱う。

(3) 合格科目の再履修はできない
既に合格（単位取得）した科目を再度履修することはできない。(すなわち一度履修して合格した科目の成績評価は変更できない)

(4) 高学年配当科目の履修はできない
自己の学年よりも高学年に配当されている科目は履修できない。

(5) 履修者指定のある科目に注意
科目によっては，所属学科・クラス・班などによる履修者指定をしている場合がある。また，授業開始前の希望者事前審査や，授業開始時の出席により，受講者指定や人数制限をする科目もある。

(6) ２年次以降の履修申告の際には，さらに，次のことに注意すること。
・履修する科目は初めての履修，再履修を問わず，すべて登録すること。
・低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は，低学年の科目を優先して履修すること。

(7) 他学部・他大学の科目の履修について
他学部や他学科，他大学などの科目を履修する場合についてはＷＥＢ上での登録ではなく別途申請が必要となる。
詳細は「15．他学部・他大学の科目の履修」を参照すること。

４．卒業と同時に「保育士」資格・「幼稚園教諭１種免許状」を取得することについて

人間科学部児童学科では，卒業と同時に「保育士」「幼稚園教諭１種免許状」を取得することができるが，このためには，それぞれの要件を同時に満たす必要がある。各参照ページを十分に理解し，計画的に単位を修得すること。

１．「卒業」するための要件

(1) 参照ページ
P. 46～49 —— **教育課程表**
P. 50～59 —— **履修要綱**

(2) 注意事項

「保育士」や「幼稚園教諭１種免許状」の取得には，卒業に必要な単位を修得することが前提となる。

卒業するための要件は何よりも重要なので，「教育課程表」「履修要綱」に基づき，単位を修得すること。

２.「保育士」資格を取得するための要件

(1) 参照ページ

P. 66～69――**「保育士」資格の取得について**

(2) 注意事項

人間科学部児童学科で配当している全 179 科目は，「児童福祉法施行規則に基づく履修科目」に該当する。これらを“告示による教科目（系列）”ごとに“当該養成施設における教科の開設状況”として一覧にしたのが，P. 67～69 の表である。

「保育士」資格を取得するためには，卒業するための要件と同時に，この表に基づき，単位を修得すること。

３.「幼稚園教諭１種免許状」を取得するための要件

(1) 参照ページ

P. 70～72 ――**「幼稚園教諭１種免許状」の取得について**

(2) 注意事項

人間科学部児童学科で配当している全 179 科目の中で，幼稚園教諭免許状の取得に関連した科目は 40 科目で，これらを“免許法施行規則に定める科目区分等”ごとに“対応する本学の開設授業科目”として一覧にしたのが，P. 71～72 の表である。

「幼稚園教諭１種免許状」を取得するためには，卒業するための要件と同時に，この表に基づき，単位を修得すること。

５．その他の資格について

上述の資格，免許状の他に，「教育学概論」「公衆衛生学」「保育原理」の３科目の単位を修得することによって，「社会福祉主事任用資格」（各地方自治体の福祉事務所等で働く者に要求される任用資格）を取得することが可能である。

６．授業時間について

各時限の授業時間は次のとおりである。

時　　限	1	2	3	4	5
時　　間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

７．公欠について

次の事由により授業を欠席する場合は，公欠として扱う。いずれも，書類を必要とするので，担当事務局に連絡の上，所定の用紙（事務局備え付け）を提出すること。

(1) 学校感染症

学校保健安全法に定める第１・２・３種感染症（インフルエンザ，風疹，百日咳，その他）と診断された場合，原則として７日以内の欠席を認める。ただし，添付書類として医師の診断書を必要とする。

なお，第２種については，登校許可書，治癒証明書でも可とする。

(2) 忌引

３親等内の血族，および配偶者と１親等内の姻族を忌引扱いとする。いずれも死亡日より起算し，日曜，祝日も含むものとする。また，往復に要する日数も忌引日数に加算する。

・父母，配偶者およびその父母　　７日
・祖父母，兄弟姉妹　　５日
・曽祖父母，おじ，おば，甥，姪　３日

(3) その他
上記に該当しないものについては，担当事務局に相談のこと。

８．休講について

学校行事や担当教員の都合などにより授業を休講とする場合がある。その場合は事前に掲示板を通して連絡する。
なお，休講の掲示やその他特段に指示がなく，授業開始時間から３０分を過ぎても授業が行われない場合は，担当事務局に問い合わせること。

９．ストライキ等により交通機関が運行停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置について

１．交通機関がストライキ等により運行停止した場合

(1) 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止した場合
次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前６時までにスト等による 運行停止が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前９時までにスト等による 運行停止が解除された場合	→	午前は休講とし，午後は平常どおりの授業を行う
3	午前９時までにスト等による 運行停止が解除されない場合	→	全日休講とする

(2) 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止しない場合
ＪＲ東日本の電車その他が，ストライキ等により運行を停止しても，授業は平常どおり行う。

２．台風による暴風警報が発表された場合

東京地方（２３区西部，２３区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発表されている場合，次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前６時までに 暴風警報が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前６時から午前９時までの間に 暴風警報が解除された場合	→	午前は休講とし，午後は平常どおりの授業を行う
3	午前９時以降に 暴風警報が解除された場合	→	全日休講とする

なお，暴風警報が発表されていない場合でも，気象状況は時間の経過とともに変化することが想定される。状況に応じて休講の措置をとることもあるので，大学発表の情報を必ず確認すること。
また，授業開始以後に暴風警報が発表された場合は，学内放送等で授業措置の情報を発信する。

３．その他

その他，緊急事態の状況によっては，前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合がある。
そのような場合，直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので，各自で確認すること。

10. 試験について

１．試験の内容

科目試験

定期試験は，全学一斉に期間を指定して行う試験で，前期末の「前期末試験」と，学年末の「学年末試験」がある。また，クォーター開講科目の場合は，クォーター終了時点に「前期前半末試験」「後期前半末試験」という定期試験を設定している。

なお，担当教員により，これらの指定期間とは別に，授業期間中にこれらの試験に準ずる試験を行う場合がある他，中間試験その他を行うことがある。また，レポート，論文等をもって試験に替える場合もある。

受験に際しては次の事項に留意すること。

(1) 試験科目，試験の日時および場所は予め掲示する（その際に受験についての注意事項を併せて掲示する)。

(2) 次の何れかに該当する者は試験を受けることはできない。たとえ受験しても無効とする。

　ａ．科目の履修申告をしていない者

　ｂ．学生証を所持しない者

　ｃ．試験開始後２０分以上遅刻した者

(3) 受験の際は学生証を必ず机上に置かなければならない。

(4) 試験当日学生証の携帯をしていない者は，事務局の証明書自動発行機より「受験（受講）のための証明書」を発行し，机上に置かなければならない。

(5) 試験開始後３０分以内の退場は許可しない。

(6) 病気・負傷，大学に向かう途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は，欠席届に診断書又は証明するものを添えて担当事務局に提出しなければならない。

２．定期試験の実施について

人間科学部児童学科の定期試験は，原則として平常の授業時間内で実施する。一部の科目においては，定期試験期間を設定し，次の通り各時限６０分を原則とした試験時間を設定している。

※参考：他学部の定期試験

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00～10:00	10:20～11:20	11:40～12:40	13:40～14:40	15:00～16:00	16:20～17:20	17:40～18:40

３．試験の際に不正を行った者の取り扱い

本学部学生が，試験（単位互換により，本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合，「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い，「当該学期に実施する全ての科目試験の評価を不可（０点）にする」とともに，「１０日以上の停学または退学」とする。

(1) 試験には，大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他，担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や，クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし，これらのすべてを「当該学期に実施する全ての科目試験」として取り扱う。

(2) 停学の期間は在学年数に算入する。

(3) 処分の内容は決定後公示する。

(4) 停学の執行開始は，処分を決定した日の翌日からとする。

注１：下記のような場合は不正行為と断定する。

(a) 代人に受験させた場合

(b) 他人のために答案，メモ等を書いたり，他人に答案，メモ等を書いてもらったりしている場合

(c) 問題配布後で試験開始の合図がある前,および試験終了後に鉛筆などの筆記用具を手に持っている場合

(d) 持ち込みを許可されていない教科書，参考書，ノート，メモ等を見たと認められる場合

(e) 他人の答案を見たと認められる場合

(f) 他人に自己の答案を見せたと認められる場合

(g) 言語，動作をもって互いに連絡している場合

(h) 教科書，参考書，ノート等を参照してよい場合に，これらを互いに貸借している場合
(i) その他，試験監督者および出題者が不正と判断する行為(例えばメモ，ノートを机上においている場合や所持している場合等)を行った場合
(j) 携帯電話やスマートフォンなどの携帯端末を机の上に置いたり,身に着けていたりした場合

注２：不正行為は試験場で指摘された場合に限らず，採点の際に発見された場合も同様の扱いを受ける。

注３：処分を受けると当該試験期間に実施される科目試験の全ての科目が不合格となるので，ほぼ確実に１年以上の卒業延期となる。

11. 成績について

１．成績の発表

(1) 科目試験の結果は，８月下旬（クォーター開講を含む前期配当科目）と３月下旬（クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目）の２回発表する。

(2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとする。

(3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は，３月に本学内に掲示する。

２．成績の評価

(1) 評価の対象
出席時間数が学則に定められた開講時間数の３分の２に満たない者は，履修登録を行っていても成績評価の対象とならないので注意すること。

(2) 各授業科目の成績評価
各授業科目についての成績評価を，秀（100 点～90 点），優(89 点～80 点)，良（79 点～70 点），可（69 点～60 点），不可（59 点以下）の５段階に分け，秀，優，良，可を合格，不可を不合格とする。

(3) 個人の成績の総合評価
個人の学業成績の総合評価は，ｆ－ＧＰＡ（ファンクショナルグレード・ポイント・アベレージ）方式により算定される。計算式は以下のとおりで，算出された評定値の大きい順に順位がつけられる。

$$\frac{\text{履修した各科目のＧＰ×単位数の合計}}{\text{履　修　単　位　数}} = \text{評定値}$$

※ＧＰ＝（科目の得点－５５）／１０　ただし，科目の得点が６０点未満の場合，ＧＰは０とする。

(a) 対象となる科目は「卒業要件対象科目」とする。(特別履修などによる卒業要件非加算科目は対象外)
(b) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
(c) 不合格科目を再履修した場合は，分母の履修単位数の変更はせずに，分子のＧＰのみ最新評価結果に替えて算出する。
(d) 前期終了時に評定値を算出する場合,当該年度に履修中の通年科目については,分母(履修単位数)に含めない。
(e) 評定値が同じ場合には，分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。

12. 学年末の指導

(1) 単位修得状況による指導
１年次前期終了時に修得単位が１０単位未満の者に対しては，学修意欲の促進と成績向上を目的として，クラス担任が面談等の個別指導を行う。また，**１年次終了時に修得単位が２０単位未満**の者に対しては，クラス担任が面談

等を行い，勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。
なお，いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含めない。また，途中に休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

(2) ｆ－ＧＰＡによる指導
各年次終了時に，ｆ－ＧＰＡが０．３未満の者には，退学勧告を行う。

13. 卒業研究着手の条件について

４年生に履修する卒業研究に着手するためには，３年以上在学し，１００単位以上（うち，「基礎ゼミ」２単位，「児童学入門」２単位，「特別研究」４単位を含む）を修得していることが必要である。この条件に満たない場合は，３年以上在学していても，卒業研究に着手することはできないので，卒業は延期される。

注意：「卒業研究」は学年始めの４月からはじまる。３年終了時までに休学期間があると，それが１年未満であっても，着手は次の学年始めの４月まで延期されることになる。

14. 修業年限と卒業延期について

１．修業年限

本学を卒業するためには４年以上在学しなければならない。４年を越え在学し，なお卒業できない場合でも在学年数は８年を超えることはできない。ただし，休学中の期間は在学期間に加えない。

２．卒業延期

４年を越え在学する場合は，４月３０日までに定められた所定の学費を納入しなければならない。履修届出については前年度までの方法と同じである。

なお卒業延期者に対しては，科目試験については学期末毎に，卒業試験（卒業研究）については２カ月毎に審査が行われて卒業に必要な条件が満足されれば，前者については学期末に，後者については２カ月毎の月末に卒業資格が認定される。

15. 他学部・他大学の科目の履修について

１．特別履修

科目の５区分に属さない他学部（工学部・知識工学部・環境学部・メディア情報学部・都市生活学部）・他大学（単位互換提携をしている大学に限る）の科目は，ある一定の条件を満たさなければ履修することはできない。ただし，一定の条件を満たす場合は，「特別履修科目」として単位が認定され，「自由選択」の１４単位内に含めることができる。条件等の詳細については，担当事務局に問い合わせること。

２．他学部の科目の特別履修

他学部で開講される科目の履修については以下のとおりである。

(1) 履修の手続き
履修する場合は，「特別履修申告書」（各自ポータルサイトよりダウンロード）に必要事項を記入の上，第１週目の授業に出席し科目担当者の認印を受けてから，事務局に提出すること。履修にあたっては，事務局に備え付けの該当学部「学修要覧」，「教授要目」，「授業時間表」を参考にすること。

(2) 履修の制限
・履修の可否は，他学部内の他学科で開講される科目の取り扱いに準ずる。
・所属学年よりも上の学年の配当科目は履修できない。
・履修順序の指定がある科目で，前提となる科目を履修していない場合は，当該科目を履修することはできない。
・履修希望者数が多く，履修人数を制限する場合は，開講学部の学生が優先される。

(3) 試験日程および成績評価

履修科目の試験日程および成績評価は，開講学部の日程および基準による。

履修モデル

幼稚園教諭１種免許・保育士資格取得の場合

142 単位

１　年		２　年		３　年		４　年	
前　期	後　期	前　期	後　期	前　期	後　期	前　期	後　期
24 単位	16 単位	26 単位	20 単位	20 単位	23 単位	7 単位	6 単位

教養科目

公衆衛生学
国際化と異文化理解
日本国憲法
情報処理演習(1)　情報処理演習(2)

外国語科目

Study Skills
C/S(1)　C/S(2)
R&W(1)　R&W(2)　TOEIC Preparation

体育科目

人間と健康
健康と運動(1)　健康と運動(2)

専門科目

保育原理
児童家庭福祉(1)
教育原理
相談援助　社会福祉
発達心理学(1)　社会的養護(1)　教育心理学
子どもの食と栄養　子どもの保健(1)　子どもの保健(2)
家庭支援論　子どもの保健(3)
乳児保育(1)　保育内容総論　障害児保育
保育内容人間関係指導法　保育内容言葉指導法　保育内容環境指導法
保育内容表現指導法
保育者論
カリキュラム論
社会的養護内容
保育内容健康指導法
保育相談支援
保育の表現技術（音楽表現）(1)　保育の表現技術（音楽表現）(2)
保育の表現技術（造形表現）(1)　保育の表現技術（造形表現）(2)　保育の表現技術（身体表現）
保育の表現技術（言語表現）
保育実習(1)（保育所・施設）
保育実習指導(1)（保育所）
保育実習指導(1)（施設）
保育実習(2)
保育実習指導(2)（保育所）
——または——
保育実習(3)
保育実習指導(3)（施設）
保育・教職実践演習(幼稚園)
発達心理学(2)
幼児の生活と遊び
児童文学
子どもと数
幼児の造形表現指導法
幼児教育方法論
幼稚園教育実習(1)　幼児理解の理論と方法　幼稚園教育実習(2)
幼稚園教育実習指導(1)　教育相談　幼稚園教育実習指導(2)
幼児の生活と自然環境
キャリアデザイン入門　キャリアデザイン(1)　キャリアデザイン(2)
子育て支援演習
児童学入門
食農文化と子育て(1)
基礎ゼミ
特別研究　卒業研究

凡例　必修科目　保育士 必修または選択必修　幼稚園教諭 必修または選択必修

その他学年配当のない科目
インターンシップ(1)　インターンシップ(2)　ボランティア(1)　ボランティア(2)

※毎学期，開講期を変更する科目，閉講する科目が生じる場合があるので，別冊の時間割を確認すること。

保育士資格取得の場合

124 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
22 単位	18 単位	23 単位	20 単位	12 単位	16 単位	7 単位	6 単位

教養科目

公衆衛生学

日本国憲法

情報処理演習(1)　情報処理演習(2)　情報処理演習(3)　情報処理演習(4)

外国語科目

Study Skills

C/S(1)　C/S(2)

R&W(1)　R&W(2)　TOEIC Preparation

体育科目

人間と健康

健康と運動(1)　健康と運動(2)

専門科目

保育原理

児童家庭福祉(1)

教育原理

相談援助　社会福祉

発達心理学(1)　社会的養護(1)　教育心理学　保育者論

子どもの食と栄養　子どもの保健(1)　子どもの保健(2)　カリキュラム論

家庭支援論　子どもの保健(3)　社会的養護内容

乳児保育(1)　保育内容総論　障害児保育　保育内容健康指導法

保育内容人間関係指導法　保育内容言葉指導法　保育内容環境指導法　保育相談支援

保育の表現技術（音楽表現）(1)　保育の表現技術（音楽表現）(2)　保育内容表現指導法

保育の表現技術（造形表現）(1)　保育の表現技術（造形表現）(2)　保育の表現技術（身体表現）

保育の表現技術（言語表現）

保育実習(1)（保育所・施設）

保育実習指導(1)（保育所）

保育実習指導(1)（施設）

保育実習(2)
保育実習指導(2)（保育所）
――または――
保育実習(3)
保育実習指導(3)（施設）

保育・教職実践演習(幼稚園)

発達心理学(2)

教育学概論

キャリアデザイン入門　キャリアデザイン(1)　キャリアデザイン(2)

幼児の生活と自然環境

子育て支援演習

児童学入門

食農文化と子育て(1)　食農文化と子育て(2)

基礎ゼミ

特別研究　卒業研究

凡例

必修科目　保育士 必修または選択必修　幼稚園教諭 必修または選択必修

その他学年配当のない科目

インターンシップ(1)　インターンシップ(2)　ボランティア(1)　ボランティア(2)

※毎学期，開講期を変更する科目，閉講する科目が生じる場合があるので，別冊の時間割を確認すること。

幼稚園教諭１種免許取得の場合

128 単位

１　年		２　年		３　年		４　年	
前　期	後　期	前　期	後　期	前　期	後　期	前　期	後　期
24 単位	16 単位	25 単位	18 単位	16 単位	17 単位	6 単位	6 単位

教養科目

- 心理学概論
- 日本国憲法
- 日本文学
- 情報処理演習(1)
- 情報処理演習(2)
- 情報処理演習(3)
- 情報処理演習(4)

外国語科目

- Study Skills
- C/S(1)
- C/S(2)
- R&W(1)
- R&W(2)
- TOEIC Preparation

体育科目

- 人間と健康
- 健康と運動(1)
- 健康と運動(2)

専門科目

- 保育原理
- 教育原理
- 児童家庭福祉(1)
- 発達心理学(1)
- 教育心理学
- 保育者論
- 子どもの食と栄養
- 子どもの保健(1)
- 子どもの保健(2)
- カリキュラム論
- 保育内容総論
- 障害児保育
- 保育内容健康指導法
- 保育内容人間関係指導法
- 保育内容言葉指導法
- 保育内容環境指導法
- 保育相談支援
- 保育の表現技術（音楽表現）(1)
- 保育の表現技術（音楽表現）(2)
- 保育内容表現指導法
- 保育の表現技術（造形表現）(1)
- 保育の表現技術（造形表現）(2)
- 保育の表現技術（身体表現）
- 保育・教職実践演習(幼稚園)
- 保育の表現技術（言語表現）
- 児童家庭福祉(2)
- 発達心理学(2)
- 臨床心理学
- 保育の表現技術（音楽表現）(3)
- 子どもと昔話
- 幼児の生活と遊び
- 児童文学
- 子どもと数
- 幼児の身体表現指導法
- 幼児の音楽表現指導法
- 幼児教育方法論
- 幼稚園教育実習(1)
- 幼児理解の理論と方法
- 幼稚園教育実習(2)
- 幼稚園教育実習指導(1)
- 教育相談
- 幼稚園教育実習指導(2)
- キャリアデザイン入門
- キャリアデザイン(1)
- キャリアデザイン(2)
- 子育て支援演習
- 児童学入門
- 食農文化と子育て(1)
- 基礎ゼミ
- 特別研究
- 卒業研究

凡例

- 必修科目
- 保育士 必修または選択必修
- 幼稚園教諭 必修または選択必修

その他学年配当のない科目

- インターンシップ(1)
- インターンシップ(2)
- ボランティア(1)
- ボランティア(2)

※毎学期，開講期を変更する科目，閉講する科目が生じる場合があるので，別冊の時間割を確認すること。

資格・免許取得せずの場合

124 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期 24 単位	後 期 18 単位	前 期 22 単位	後 期 20 単位	前 期 13 単位	後 期 19 単位	前 期 5 単位	後 期 3 単位
心理学概論	日本文化の伝承	日本文学			公衆衛生学		
	日本国憲法						
情報処理演習(1)	情報処理演習(2)	情報処理演習(3)	情報処理演習(4)				
Study Skills							
C/S(1)	C/S(2)						
	R&W(1)	R&W(2)	TOEIC Preparation				
人間と健康							
健康と運動(1)	健康と運動(2)						
保育原理		教育原理					
児童家庭福祉(1)		相談援助	社会福祉				
	発達心理学(1)	社会的養護(1)	教育心理学		保育者論		
	子どもの食と栄養	子どもの保健(1)	子どもの保健(2)		カリキュラム論		
		家庭支援論			社会的養護内容		
	乳児保育(1)	保育内容総論	障害児保育		保育内容健康指導法		
			保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	保育相談支援		
			保育内容表現指導法				
保育の表現技術（言語表現）							
	児童家庭福祉(2)	発達心理学(2)		乳児保育(2)	社会的養護(2)	臨床心理学	
児童文化					子どもと昔話		
手話		児童文学					
	教育学概論						
				幼児教育方法論			
				幼児理解の理論と方法			
				教育相談			
			キャリアデザイン入門	キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)		
幼児の生活と自然環境			海外研修				
児童学入門		食農文化と子育て(1)	食農文化と子育て(2)				
基礎ゼミ				特別研究		卒業研究	

教養科目

外国語科目

体育科目

専門科目

凡例：必修科目／保育士 必修または選択必修／幼稚園教諭 必修または選択必修

その他学年配当のない科目：インターンシップ(1)／インターンシップ(2)／ボランティア(1)／ボランティア(2)

※毎学期，開講期を変更する科目，閉講する科目が生じる場合があるので，別冊の時間割を確認すること。

履修系統図

DP

1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。
2. 「体験プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。
3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。
4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

領域	DP1		DP2			DP3			DP4	
4年後期	保育教職実践演習（幼稚園）				卒業研究（通年）				インターンシップ（2）＊	ボランティア（2）＊
									インターンシップ（1）＊	ボランティア（1）＊
4年前期	保育実習（2）（保育所）	保育実習（3）（施設）	子育て支援演習（2,3,4年）			臨床心理学				
	保育実習指導（2）（保育所）	保育実習指導（3）（施設）								
3年後期	幼稚園教育実習指導（2）			保育者論	カリキュラム論	公衆衛生学	保育相談支援	、	キャリアデザイン（2）	子どもと音楽
	幼稚園教育実習（2）				保育内容健康指導法	社会的養護内容	社会的養護（2）			
3年前期	保育実習指導（1）（保育所）	保育実習指導（1）（施設）		幼児の造形表現指導法	保育内容環境指導法	幼児理解の理論と方法	教育相談		キャリアデザイン（1）	
				幼児の身体表現指導法			乳児保育（2）			
	保育実習（1）（保育所・施設）			幼児の音楽表現指導法	幼児教育方法論					
2年後期	幼稚園教育実習指導（1）				保育内容表現指導法	障害児保育	子どもの保健（3）	教育心理学	キャリアデザイン入門	海外研修
	幼稚園教育実習（1）				保育内容言葉指導法	社会福祉	子どもの保健（2）		TOEIC Preparation	食農文化と子育て（2）
2年前期	教育原理	保育内容総論		保育の表現技術（音楽表現）（3）	保育内容人間関係指導法	家庭支援論	子どもの保健（1）		児童文学	食農文化と子育て（1）
		発達心理学（2）		保育の表現技術（身体表現）		相談援助	社会的養護（1）		Reading and Writing(2)	子どもと歌
1年後期			発達心理学（1）	保育の表現技術（音楽表現）（2）	保育の表現技術（造形表現）（2）	子どもの食と栄養	乳児保育（1）		Communication Skills(2)	
	情報処理演習（2）	日本国憲法	教育学概論	健康と運動（2）		児童家庭福祉（2）			Reading and Writing(1)	
1年前期			保育原理	保育の表現技術（音楽表現）（1）	保育の表現技術（造形表現）（1）	児童家庭福祉（1）	幼児の生活と自然環境		Study Skills	児童文化
	情報処理演習（1）	人間と健康		健康と運動（1）	保育の表現技術（言語表現）		幼児の生活と遊び	手話	Communication Skills(1)	

基礎ゼミ

児童学入門

＊学年設定なし

「保育士」「幼稚園教諭１種免許状」に関する「実習」について

本学人間科学部児童学科は，「保育士」資格と「幼稚園教諭１種免許状」を取得することができる。詳細は次頁以降を参照すること。

ここでは，「保育士」「幼稚園教諭１種免許状」に関して，それぞれで行う「実習」について一覧にまとめた。実習そのものと，その準備のための授業科目があるので注意すること。

	保　育　士				幼稚園教諭１種免許状	
	○必修として 「保育所」「施設」の 両方の実習を行う		△選択必修として 「保育所」または「施設」の どちらかの実習を行う。		○必修として 「(1)［通称：観察実習］」と 「(2)［通称：責任実習］」の 両方の実習を行う	
実　習 授業科目	保育実習(1)(保育所･施設)		保育実習(2)(保育所)	保育実習(3)(施設)	幼稚園教育実習(1)	幼稚園教育実習(2)
実習準備 授業科目	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)		保育実習指導(2)(保育所)	保育実習指導(3)(施設)	幼稚園教育実習指導(1)	幼稚園教育実習指導(2)
実習先	保育所	施設	保育所	施設	幼稚園 （観察実習）	幼稚園 （責任実習）
1 年						
2 年	９月実習費納入				４月実習費納入 後期授業科目 ２月頃：実習	
3 年	前期授業科目 ６月頃：実習 ８月頃：実習					後期授業科目 ２月頃：実習
4 年			前期授業科目 ６月頃：実習	前期授業科目 ８月頃：実習		

「保育士」資格の取得について

本学人間科学部児童学科は,「指定保育士養成施設」として認定されている。これにより「保育士」資格を取得するには,卒業要件を充足し，かつ児童福祉法および同施行規則の定めるところによる別表の専門科目の中から，所定の単位を修得しなければならない。

１．資格の種類

保育士

２．履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上，履修登録時に，資格取得に必要な科目を登録すること。

なお，保育実習には，別途「保育実習費」として￥７０，０００を，２年次後期に徴収する。詳細は，保育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した保育実習費は，理由の如何にかかわらず返還しない。

３．履修制限について

保育士を養成する社会的責任から，次の条件を設けて履修者を制限することがある。

(1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合

(2) 授業等への出席状況が著しく悪い者

(3) その他，保育士を志す者としてふさわしくない者

４．「保育実習」について

保育士資格取得のためには，次の実習に参加して，単位を修得しなければならない。

① 実習の種別と期間

授業科目と種別		期　　間			実 習 指 導 科 目
保育実習(1)(保育所･施設)	保育所	第３学年	６月頃	１２日間	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)
	施設	第３学年	８月頃	１２日間	
保育実習(2)(保育所) または	保育所	第４学年	６月頃	１２日間	保育実習指導(2)(保育所)
保育実習(3)(施設)	施設	第４学年	８月頃	１２日間	保育実習指導(3)(施設)

※実習期間の「１２日間」については，実習先に実習時間（９０時間）を満たすこととして依頼しており，各施設において調整される。

②実習の基準

実習に参加するためには，以下の専門科目の単位を修得するか，履修中であることが必要である。

教科目区分	修得科目または単位数
保育の本質・目的に関する科目	４科目　　１０単位以上
保育の対象の理解に関する科目	３科目　　６単位以上
保育の内容・方法に関する科目	５科目　　１０単位以上
保育の表現技術	３科目　　４単位以上

別表　児童福祉法施行規則に基づく履修科目

	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備　　考
	系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数			
							必修	選択	計	
011	教養科目	外国語，体育以外の科目	不問	６以上	日本文学	講義		2	2	
029					日本国憲法	講義		2	2	
040					心理学概論	講義		2	2	
043					国際化と異文化理解	講義		2	2	
047					生活とメディア	講義		2	2	
048					公衆衛生学	講義		2	2	
051					情報処理演習(1)	演習	1		1	
052					情報処理演習(2)	演習	1		1	
053					情報処理演習(3)	演習		1	1	
054					情報処理演習(4)	演習		1	1	
062		外国語	演習	２以上	Study Skills	演習		1	1	
063					Communication Skills(1)	演習	1		1	
064					Communication Skills(2)	演習	1		1	
065					Reading and Writing(1)	演習		1	1	
066					Reading and Writing(2)	演習		1	1	
067					TOEIC Preparation	演習		1	1	
101		体育	講義	1	人間と健康	講義	2		2	
102			実技	1	健康と運動(1)	実技	1		1	
103					健康と運動(2)	実技	1		1	
合　　計			１０単位以上				8	18	26	
					26　単位　（≧10 単位）					

告示別表第１による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備　　考	
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2		104
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		2		105
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉(1)	講義	2		2		106
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2		107
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	2		2		108
	社会的養護	講義	2	社会的養護(1)	講義	2		2		109
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2		110
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	発達心理学(1)	講義	2		2		111
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	教育心理学	演習	2		2		112
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健(1)	講義	2		2		113
				子どもの保健(2)	講義	2		2		114
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健(3)	演習	1		1		115
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2		116
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2		2		117
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	カリキュラム論	講義	2		2		118
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		2		119
	保育内容演習	演習	5	保育内容健康指導法	演習	2		2		120
				保育内容人間関係指導法	演習	2		2		121
				保育内容環境指導法	演習	2		2		122
				保育内容言葉指導法	演習	2		2		123
				保育内容表現指導法	演習	2		2		124
	乳児保育	演習	2	乳児保育(1)	演習	2		2		125
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		2		126
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	2		2		127
	保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習	2		2		128
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	保育の表現技術(音楽表現)(1)	演習	2		2		129
				保育の表現技術(音楽表現)(2)	演習	2		2		130
				保育の表現技術(造形表現)(1)	演習	2		2		131
				保育の表現技術(造形表現)(2)	演習		2	2		132
				保育の表現技術(身体表現)	演習	2		2		133
				保育の表現技術(言語表現)	演習	2		2		134
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習(1)(保育所・施設)	実習	4		4		135
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導(1)(保育所)	演習	1		1		136
				保育実習指導(1)(施設)	演習	1		1		137
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		2		142
合　　計		５１単位				67	2	69		
				69　単位　(≧51 単位)						

	告示別表第２による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備　　考
	系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計	
143	保育の本質・目的に関する科目		各指定保育士養成施設において設定	15単位以上	社会的養護(2)	講義		2	2	
144					児童家庭福祉(2)	講義		2	2	
176					児童学入門	講義		2	2	
145	保育の対象の理解に関する科目				発達心理学(2)	演習		2	2	
146					臨床心理学	演習		2	2	
173					子育て支援演習	演習	2		2	
174					食農文化と子育て(1)	演習	2		2	
175					食農文化と子育て(2)	演習		2	2	
177					基礎ゼミ	演習	2		2	
178					特別研究	演習	4		4	
179					卒業研究	演習	6		6	
147	保育の内容・方法に関する科目				乳児保育(2)	演習		2	2	
149					児童文化	演習		2	2	
150					子どもと昔話	講義		2	2	
171					幼児の生活と自然環境	実習	2		2	
148	保育の表現技術				保育の表現技術(音楽表現)(3)	演習		2	2	
151					手話	演習		2	2	
138	保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習(2)(保育所)	実習		2	2	どちらかを選択して履修
139		保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導(2)(保育所)	演習		1	1	
140		保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習(3)(施設)	実習		2	2	
141		保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導(3)(施設)	演習		1	1	
	合　　計		１８単位以上				18	28	46	
					46　単位　（≧18 単位）					

保育士資格取得科目ではないが，学校独自の科目として開設されている教科目	H30 の教育課程表に掲載されている全科目のうち，告示（別表第１・別表第２）による教科目（ P. 67～69 ）に掲載されていない全ての科目が該当する。

「幼稚園教諭１種免許状」の取得について

本学人間科学部児童学科では，幼稚園教諭免許状の取得に関連した幼児教育に関する科目を開講している。この免許状を希望する場合は，所定の科目を修めることにより幼稚園教諭１種免許状を取得することが可能である。

１．免許状の種類

幼稚園教諭１種免許状

２．履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上，履修登録時に，免許取得に必要な科目を登録すること。

なお，教育実習には，別途「教育実習費」として￥５０，０００を，２年次前期に徴収する。詳細は，教育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した教育実習費は，理由の如何にかかわらず返還しない。

３．履修制限について

幼稚園教諭を養成する社会的責任から，次の条件を設けて履修者を制限することがある。

(1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合

(2) 授業等への出席状況が著しく悪い者

(3) その他，幼稚園教諭を志す者としてふさわしくない者

４．幼稚園教諭１種免許状を取得するためには，次の要件を充足しなければならない。

(1) 基礎資格

学士の学位を有すること

(2) 大学において修得することを必要とする最低単位数

①免許法施行規則に定める科目区分において，最低修得単位数として，以下を充たすこと

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目 教育の基礎理論に関する科目 教育課程及び指導法に関する科目 生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 教職実践演習 教育実習	３５単位
教科に関する科目	国語，算数，生活，音楽，図画工作，体育， これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目その他これら科目に準ずる内容の科目	６単位
教科又は教職に関する科目	上記の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の各区分の必要最少単位数を超えて修得する科目， 教職に関する科目に準ずる科目	１０単位

②「教育職員免許法施行規則第 66 条 6 に定める科目」として，日本国憲法２単位，体育２単位，外国語コミュニケーション２単位，情報機器の操作２単位を修得すること

教育職員免許法施行規則第 66 条 6 に定める科目	日本国憲法	２単位
	体育	２単位
	外国語コミュニケーション	２単位
	情報機器の操作	２単位

上表の単位要件を充たすために，本学人間科学部児童学科では，それぞれの科目区分に対応する授業科目を，次頁の通り開設している。

この表により単位を修得することで，幼稚園教諭１種免許状の単位要件を充たすことができる。

教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			備　　考	
科目	各科目に含める必要事項	最低単位数修得	授業科目	単位数 必修	単位数 選択		
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	保育者論	2			110
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	6	教育原理	2		教育原理の中に含める	105
			教育学概論		2		155
	・幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		発達心理学(1)	2			111
			発達心理学(2)	2			145
			教育心理学	2			112
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	１８	カリキュラム論	2		これら３科目より１科目選択必修	118
	・保育内容の指導法		保育内容健康指導法	2			120
			保育内容人間関係指導法	2			121
			保育内容環境指導法	2			122
			保育内容言葉指導法	2			123
			保育内容表現指導法	2			124
			保育内容総論	2			119
			幼児の造形表現指導法		2		156
			幼児の身体表現指導法		2		157
			幼児の音楽表現指導法		2		158
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		幼児教育方法論	2			159
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2	幼児理解の理論と方法	2			160
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2			161
教職実践演習		2	保育･教職実践演習(幼稚園)	2			142
教育実習		5	幼稚園教育実習(1)	2			162
			幼稚園教育実習指導(1)	1			163
			幼稚園教育実習(2)	2			164
			幼稚園教育実習指導(2)	1			165

履修上の参考ＭＥＭＯ

			必修	選択
「免許法施行規則に定める科目区分等」として必要な単位数合計	３５	本学で開設している科目	38	8

教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	左記に対応する本学の開設授業科目 授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	
国　語	6	児童文学	2			153
算　数		子どもと数	2			154
生　活					開設なし	
音　楽		保育の表現技術(音楽表現)(1)	2			129
		保育の表現技術(音楽表現)(2)	2			130
		保育の表現技術(音楽表現)(3)		2		148
図画工作		保育の表現技術(造形表現)(1)	2			131
		保育の表現技術(造形表現)(2)		2		132
体　育		保育の表現技術(身体表現)	2			133
これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目その他これら科目に準ずる内容の科目		幼児の生活と遊び	2			152
	6		14	4		

教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	左記に対応する本学の開設授業科目 授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
(教科又は教職に関する科目)	１０	最低修得単位数を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について，併せて１０単位以上修得			
	１０	人間科学部の場合，「教科…」「教職…」を前記指定通り履修すればほぼ自動的にクリアする状況になる			

教育職員免許法施行規則第 66 条 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	左記に対応する本学の開設授業科目 授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考	
日本国憲法	2	日本国憲法	2			029
体　育	2	健康と運動(1)	1			102
		健康と運動(2)	1			103
外国語コミュニケーション	2	Communication Skills(1)	1			063
		Communication Skills(2)	1			064
情報機器の操作	2	情報処理演習(1)	1			051
		情報処理演習(2)	1			052
	8		8			

東京都市大学オーストラリアプログラム（ＴＡＰ）

１．TAP が目指す人材像

都市大の伝統である「実践的な専門力を有した国際人」が TAP の目指す人材像。
「英語で学び，英語で考え，英語で議論する」ことのできる学生を育てます。

２．ＴＡＰの目標

TAP は，1 年次からの準備教育と 2 年次の 4 か月間の留学を合わせた 2 年間に亘る本学独自の国際人育成プログラム。このプログラムを通じて，国際的な視野とコミュニケーション能力を持った，時代に柔軟に対応できる人材を育成します。留学先の西オーストラリア州は，アジア，ヨーロッパ，アフリカなどのさまざまな国の出身者が暮らす多様性に富んだ州で，このような恵まれた環境の中で，グローバルに活躍するために語学力と異文化を理解する力を磨きながら，自主性や自立心を高めます。

３．プログラム概要

1 年次からの準備教育では，語学準備講座と留学準備研修会を提供します。2 年次の 4 か月間は，西オーストラリア州パース近郊にあるエディスコーワン大学（以下，ECU）またはマードック大学（以下，MU）に留学し，英語と教養を学びます。

(1) 参加対象学部学科・募集定員・派遣期間・派遣先大学（平成 30（2018）年度入学者）

学部学科	定員	サイクル	派遣期間	派遣先大学
工学部　全 8 学科	100 名	サイクル B	2019 年 8 月～11 月	ECU/MU
知識工学部　全 4 学科	35 名			
環境学部　環境創生学科	25 名	サイクル A	2019 年 2 月～ 5 月	MU
環境学部　環境マネジメント学科	15 名			
メディア情報学部　社会メディア学科	25 名			
メディア情報学部　情報システム学科	10 名			
都市生活学部　都市生活学科	90 名			ECU
人間科学部　児童学科	3 名			

(2) 参加費用

90 万円　・・・準備教育，査証取得費用，航空運賃，学生寮費などが含まれます。

４．プログラム内容

１．準備教育

1-1. 語学準備講座

留学に備えて，出発までに TOEIC550 点以上の取得を目指します。授業期間中（2 学期間※），ネイティブスピーカーによるレッスンを週 5 日合計 100 回受けます（※学部学科により 3 学期間の場合もあり）。レッスンの内容は「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能の習得に加え，プレゼンテーションスキルも磨きます。

1-2. 留学準備研修

国際人として成長するための準備として，異文化理解やコミュニケーション能力を高めるための研修を行います。研修会は，出発までに 5 回程度開催する予定です。その内容は，ゲストスピーカーによる特別講演，危機管理セミナー，帰国学生による「留学生活や授業についての講演」などを予定しています。

２．留学中の授業

4 か月間の留学において，1st クォーターは，大学付設の語学学校（能力別クラス）で他国の留学生とともに英語を学びます。2nd クォーターは国際人として必要な教養を身につけるために，教養の科目を英語で学びます。現地における科目と，本学における認定科目については以下のとおりですが，詳細は学科の教務委員（または TAP 担当教員）に確認してください。

TAPにおける海外大学で修得した単位の認定について

派遣先大学名	海外大学の開講科目名　※1	単位数	都市大での認定科目名	単位数	工学部 認定科目区分	知識工学部 認定科目区分	環境学部 認定科目区分	メディア情報学部 認定科目区分	都市生活学部 認定科目区分	人間科学部 認定科目区分
ECU	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4単位を外国語必修単位ＣＳ(1),ＣＳ(2)＜1年次配当＞, ＲＷ(2),ＴＰ＜2年次配当＞ の4単位で認定（上記科目の履修は免除）					
			Communication Skills(2)	1						
			Reading and Writing(2)	1						
			TOEIC Preparation	1						
	Australia Today	4	※2	4	教養科目	教養科目	―	―	教養科目	教養科目
	Collaborative Design	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基盤科目・選択	―	―	教養科目	教養科目
	Social, Cultural, and Media Studies	2	※2	2	教養科目	教養科目	―	―	専門基礎科目・選択必修	教養科目
	Urban Movement and Analysis	2	※2, ※3	2	―	―	―	―	専門科目・必修	教養科目
	Introductory Applied Mathematics	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基盤科目・選択	―	―	―	―
MU	Improving English	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4単位を外国語必修単位ＣＳ(1),ＣＳ(2)＜1年次配当＞, ＲＷ(2),ＴＰ＜2年次配当＞ の4単位で認定（上記科目の履修は免除）					
			Communication Skills(2)	1						
			Reading and Writing(2)	1						
			TOEIC Preparation	1						
	Australia Today	4	※2	4	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	―	―
	Australia and Asia	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	―	―
	Digital Storytelling	2	※2	2	―	―	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	―	―
	Using Web Data	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基盤科目・選択	―	―	―	―
	Sustainable Urban Design	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基盤科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	―	―

※1　海外大学での開講科目(名)は変更となる場合がある。
※2　海外大学で単位を修得した科目の名称のまま、学則第43条に則り、都市大で単位を認定する。
※3　都市生活学部においては、必修科目「まちの観察」に読替えて認定する。

３．現地での過ごし方

留学中は派遣先大学キャンパス内の学生寮に滞在します。4 か月間の長期滞在メリットを生かし，現地学生や他国の留学生との交流を深めることができます。また，現地の学生団体や寮が主催するさまざまなイベントに参加するなど充実したアクティビティを体験することが可能です。さらに，TAP 参加者対象のアクティブプログラム事業（以下 LBA（５（2）を参照）に応募し採択されれば，自らの力で交流の機会を創り出すことができます。

４．帰国後の過ごし方

留学前と後に TOEIC テストを受験し，効果を測定しますので，自分がどれだけ成長したかを確認することができます。TAP で修得した英語力を活かすために，帰国後は「海外インターンシップ」,「交換留学」,「海外フィールドワーク」などにチャレンジしてください。

５．奨学金制度

学校法人五島育英会「夢に翼を奨学金」による奨学金制度があります。

(1) TAP アワード

各サイクルにおいて参加者数の上位 10%の学生に奨学金を給費します。選考は，語学準備講座の成績,「現地での成績, 留学後の TOEIC テストなど英語能力テストの成績, 各イベントの参加状況などを基に行います。

(2) LBA（ Let's be Active in TAP ）

個人又はグループから事前に活動計画書を提出してもらい，その企画が採択された場合に，活動費用として奨学金を給費します。

６．その他

上記の記載内容（開講科目名など）は変更される場合がありますのでご了承ください。
TAP に関するご質問等は以下の窓口まで。
国際センター（事務局国際部）　世田谷キャンパス 1 号館 1 階　　メールアドレス　kokusaibu@tcu.ac.jp

科目概要

教養科目

哲学(1) 001

Philosophy(1)

「政治学」や「心理学」といった学問は，学問名自体が研究対象を大まかに指し示していますが，「哲学」はそうではありません（「哲学」の「哲」はけっして研究対象を示しているわけではない）。では，いったい哲学の「哲」は何を意味するのでしょうか。また哲学はそもそも何を研究する学問なのでしょうか。前期の哲学の講義では，この根本的な問いに対する答えを，西洋哲学の源流である古代ギリシャ思想に遡りつつ探り出してゆきます。

哲学(2) 002

Philosophy(2)

このシラバスを書いている「私」は「大野」ですが，だからといって「私」を「大野」と規定することはできません。そんなことをすれば，（「私」と自らを名指す人は何十億といるため）世界は「大野」で溢れかえってしまうからです。では「私」とはどうとらえるべきなのでしょうか。

後期の講義では，この問いに対する解答を，主にデカルトの思索を手掛かりにしながら探し求めてゆきます。

倫理学(1) 003

Ethics(1)

倫理学は，哲学の一分野であり，人と人との間に生成する価値，規範，善悪などを考える学問である。

私と他者，そして両者を架橋する言葉の問題を中心に講義する。

倫理学(2) 004

Ethics(2)

バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。

生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立する。

生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず，自らの問いとして考えてみよう。

倫理学 005

Ethics

古来，哲学者たちは「善／悪とは何か？」，「いかに行為すべきか？」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は，私たちが生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は，科学技術の発達により，さらに高度に枝分かれし専門化した文脈においてこうした問題が問われるようになってきた。こうした時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では，その下位領域としての環境倫理学と情報倫理学を扱う。

文化人類学 006

Cultural Anthropology

文化人類学は文化を「ものさし」としながら，人類が持つ共通点と差異を見出そうとしてきました。本授業では人類学者の視点の取り方を，誤解や思い込みをも含んだ形で映像，文章などを通して追体験していくことで，人類学という学問の歩みをともに踏み固めるとともに，現代人類学の模索にまで踏み込んでみたいと思います。

視覚芸術史(1) 007

History of Visual Arts(1)

絵画と彫刻が美術の全てではない。建築やデザインも美術の範疇に含まれる。厳密に美術の範囲を規定することにそれほど意味はない。しかし「芸術とは何か」という問いには，真摯に向き合わなければならない。本講義はこうした姿勢を培うことを目的とする。

視覚芸術史(2) 008

History of Visual Arts(2)

17 世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義」がはじまり，それによって 18 世紀の産業革命が起こり，芸術の分野がそれを自覚するのは 19 世紀の半ばといわれている。新しい絵画は印象主義より始まる。本講義では，印象主義以降の絵画，建築，デザインを扱う。

デザイン概論(1) 009

Introduction to Design:Theory and History(1)

「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導けるよう本講義を行ないたい。そのため機能と形態の関わりを中心として，デザインという言葉をあまり広くとりすぎないよう「もの」に即して考察していく。本講義を履修するにあたり視覚芸術史（1）（2）を履修済みのこと。

デザイン概論(2) 010

Introduction to Design:Theory and History(2)

本講義は「デザイン概論(1)」と関連し，もののデザインについて講義していく。特に，ここでは「日本再発見」というテーマで，日本のデザインに着目し，伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。デザインは，社会の動向と無関係ではないため，時事に即した問題についても随時とりあげる。

日本文学 011

Japanese Literature

文学は,自分が生きてきた背景や培ってきた価値観等に基づいて総合的に人間性を探究する営みである。人間には文学作品を読むことを通してしか学べないことがあり,読書習慣は生涯の心の支えになる。この科目では豊かな教養を身につけるために,科学とは異なる,文学独自の人間の捉え方を学ぶ。

世田谷を背景とする文学作品の読解を通して,地域の自然や環境,住民がどのように文学作品の中に描かれているか探究しその価値を考える。また教科書掲載の一般によく知られた子どもの成長を描いた文学作品の読解を通して,子ども時代の感情と思考の経験を共感的に理解する。

日本史(1) 012

Japanese History(1)

日本の歴史について,主に古代から明治維新までの前近代を中心に概観し,近代に就ても概略を理解する。その際,各時代の特徴的な資料を読みながら,他の資料にも目を配ることにより,その時代の特徴と時代的な推移を多面的,多角的に眺められるようにする。

日本史(2) 013

Japanese History(2)

幕末から現在に至る日本の近現代の歴史を概観する。その際,日本の政治の移り変わりを縦軸に,各時代の社会状況を横塾にとらえながら,時代状況の変化を多面的,多角的に捉えられるようにする。政治の中心ばかりではなく,一般社会の状況にも目を配っていく。

西洋史(1) 014

European History(1)

古代ローマから中世末期に至るまでの西洋史を概観する。その際,都市構造の変化を縦軸に,各時代の社会状況を横軸に据えながら,時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしながら,その背後に隠された時代状況を読み解く。

西洋史(2) 015

European History(2)

ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら,各時代の社会状況を横軸に据えて,時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャーなど日常的なものを素材にしながら,それと当時の世界情勢との関係も読み解く。

民俗学 016

Folklore Studies

「一日・一年・一生」の民俗学

日本民俗学は日本という地域を主な対象に,人々の生活を大きなスパンで眺めてきました。その中で,特に大事にしてきたのが日常,つまり「当たり前の生活」でした。本科目では,人々の生活感覚に繋がる三つの異なる時間幅としての「一日」「一年」「一生」を軸に,民俗学が注目してきた人々の「当たり前の生活」を,皆さん自身の現在に繋げながら理解を深めていきます。

宗教学 017

Religious Studies

三大一神教を中心に,世界で主要な宗教の教義,思想,実践について学ぶ。また,宗教に関する国際問題について学び,宗教が現代社会において果たす役割について考える。

社会学(1) 018

Sociology(1)

社会学とは何か,何を明らかにしていく学問なのか。本講義では,社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し,毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。

この講義を通じて,社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題,そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。

特に社会学に触れたことのない学生が多いため,できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

What is Sociology? What can Sociology show? This class focuses the fundamental thinking sand views of Sociology, giving many different topics.

社会学(2) 019

Sociology(2)

社会学とは何か,何を明らかにしていく学問なのか。本講義では,社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し,毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。

この講義を通じて,社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題,そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。

特に社会学に触れたことのない学生が多いため,できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

What is Sociology? What can Sociology show? This class focuses the fundamental thinking sand views of Sociology, giving many different topics.

社会学入門 020

Introduction to Sociology

社会学入門では,社会学で培われてきた基本的な考えかたを学ぶことで,私たちが生きる社会のしくみを読み解いていくための基礎体力をつけることを目的とする。社会は個人の存在なくしてはなりたたないが,単なる個人の集まりでもない。私たちは社会によって拘束されているが,社会を変えることも不可能ではない。このようなジレンマをひとつひとつ解きほぐしていくことで,社会の「なりたち」が見えてくる。社会のなりたちを理解することで,私たちが生きる社会への見通しをよくしていく。社会学入門とは,そんな講義である。

経済学(1) 021

Economics(1)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では,それらのうちのミクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には,数式による説明は極力避け,図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので,適宜その用語の意味について解説していきます。

経済学(2) 022

Economics(2)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では,それらのうちのマクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には,数式による説明は極力避け,図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので,適宜その用語の意味について解説していきます。

日本経済論 023

Japanese Economy and Economics

日本経済の現状と課題,およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと,財政,金融,地域,企業,雇用,エネルギー,環境などの分野別考察を行い,最後に全体をまとめる。

政治学(1) 024

Political Science(1)

政治とは,私たち自身が当事者であるさまざまな問題を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はそうした問題を理性的に考え,解決や判断を行うための道具箱であると同時に,政治それ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず,政治学の方法および基礎概念を簡潔に解説する。次に,現代政治学の基本問題のいくつかを取り上げ,その歴史的な経緯と現状を検討してゆく。

政治学(2) 025

Political Science(2)

哲学者たちは古来より政治という営みの本質について,またその在るべき姿について考察してきた。政治とは結局のところ権力者同士の闘争のことであるのか,それとも市民の自由な善き生が開花する場なのか。政府はどのような目的のもとで設立され,その権力行使の限界はどのように画定されるべきか。政治学の目的は,政治という人間の営為を分析・理解する一方で,政治の現実を変革する可能性を示すことにある。本講義は政治学の基本的諸問題を,それらの問題を提起した古典的文献の講読を通じて検討してゆく。時事的問題についても適宜取り上げ,コメントシートを用いて受講者と討論する。

日本の政治 026

Modern Politics in Japan

1945 年の連合国の占領から今日までの日本の政治の歴史をいくつかの時代に区切り,それぞれの時代に見られた政治の特徴と政治運営の仕組を解説する。

国際関係論(1) 027

International Relations(1)

国際関係論の基礎を幅広く学び,基礎知識をつける。国際関係論(1)は,国際関係と現代世界の国際秩序について,主に歴史的変遷と基盤となる理論を扱う。したがって最新の国際情勢か現代的課題を扱うというよりは,国際関係を考える上で必要な基礎を身につけることに主眼を置く。国際関係論(2)は,現代世界の平和の課題を主に扱い,そうした課題への国際的な対処をみていく。(2)では,グローバリゼーションを取り上げ,その中で現代の国際社会が直面する課題について学ぶ。

国際関係論(1),(2)は異なる内容のため,いずれかのみの履修も可能だが,両方の履修を推奨する(また,(1)→(2),(2)→(1)いずれの順の履修でも構わない構成をとっている。)

国際関係論(2) 028

International Relations(2)

国際関係論の基礎を幅広く学び，基礎知識をつける。国際関係論（１）は，国際関係と現代世界の国際秩序について，主に歴史的変遷と基盤となる理論を扱う。したがって最新の国際情勢か現代的課題を扱うというよりは,国際関係を考える上で必要な基礎を身につけることに主眼を置く。国際関係論（２）は，現代世界の課題を主に扱い，そうした課題と，それに対するグローバルガバナンスの様相，日本とのかかわりをみていく。

国際関係論（１），（２）は異なる内容のため，いずれかのみの履修も可能だが,両方の履修を推奨する(また，（１）→（２），（２）→（１）いずれの順の履修でも構わない構成をとっている。)

日本国憲法 029

The Constitution of Japan

世界の歴史において,憲法というものが必要とされた背景をたどりながら日本国憲法の存在意義を学ぶ。憲法は国家の基本法として，とりわけ国政に影響し，国政を通じて国民の日常生活にも関わってくるものであるから，人権の保障，国民の自由および権利，人間の尊厳，平和問題ならびに国家の役割などについて多角的具体的に検討し,現実の諸問題を分析できるような知識を身につける。同時に，このことを通じて，人として持つべき倫理観，また，わが国のみならず諸外国の伝統や文化も尊重する態度を養う。

法学 030

Jurisprudence

本講義では,法学についての基礎的なことがら概観したうえで,日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず，民法の歴史および構造を概観したうえで，個別のルール（総則，物権，債権総論，契約）について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで,法の規定を理解するだけでなく,身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため,例えば物権について学ぶ回であっても,総則，債権などのルールに言及する場合がある。

民法 031

Civil Law

本講義では,日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。具体的には，債権総論，物権，親族，相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで，法の規定を理解するだけでなく，身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため,例えば物権について学ぶ回であっても，総則，債権などのルールに言及する場合がある。

西洋経済史 032

Economic History

「大航海時代」を出発点にして，ヨーロッパとアメリカ大陸，アジアの経済的関係を概観した上で，産業革命の実態と社会的影響力，産業構造の転換，消費型社会の誕生，スタンダード・テクノロジーの登場，世界恐慌とニューディール政策などを講義する。

人文地理学 033

Human Geography

本講義では，人文地理学の意義と役割，研究成果などについて説明しながら,自然と人間との関わりをさまざまな空間スケールで捉えて考察していく。随時，具体的な地域事例を取り上げて解説する。最後に，人文地理学の課題について考えさせる。

現代中国論 034

Contemporary Chinese Society

中国の名目国内総生産（GDP）は2010年に日本を追い抜いて世界第２位となった。2020 年代には米国を抜いて第１位になるとの予測もあり，「21 世紀は中国の時代」「世界の工場」といった将来性の高さが期待・注目されるが，その一方で，「バブルの崩壊」や「シャドーバンキング（影の銀行)」問題といった先行きへの懸念が取り沙汰されることも増えつつある。中国経済の高成長の背景には 1970 年代末以降の「改革・開放」政策による経済的な資本主義制度の導入があるが,政治的には社会主義が堅持され,共産党の一党独裁が維持されている。また，近年の日中関係は靖国神社問題や尖閣諸島問題などをめぐって摩擦が絶えず，1970 年代初めの関係正常化以来で「最悪の状態」との評さえある。本講義では，このような中国内外の現状や諸問題について，様々な視点から検討してゆく。

教育学(1) 035

Education(1)

人間は次世代の育成をつねに考え,そのために努力してきた。それゆえ教育についての社会的な関心は大変強いのだが,教育それ自体について深く考える機会は多くない。この授業では，現代の教育問題を偏見や固定観念にとらわれず議論するための,教育に関する事実や概念の正確な認識の習得を目指す。講義の前半では，おもに歴史上の思想家たちによる教育論を検討していく。続い

て海外の教育状況を考察し,後半ではこうした論を単なる知識の習得におわらせず,現代の教育問題にどのように適用できるかを議論していく。

教育学(2) 036

Education(2)

近現代日本の教育について歴史的に考察していく。その出発点として,いわゆる前近代の教育状況の検討からはじめ,基本的には時代順に現代教育の諸問題まで扱う予定である。考察の対象は教育についての歴史的事実と思想だけでなく,教育と深く関わる言語や芸術,社会論なども含める。近現代史に関しては今でも見解の分かれる論点が多数ある。それゆえ講義では近現代の教育に関する具体的な知識だけでなく,現代の私たちが考え判断するための素材を提供すべく,可能な限り偏りなく多くの議論を紹介していく。

スポーツ・健康論 037

The theory of Health, Physical Fitness and Sports

現代社会における心身の健康に関する諸問題やスポーツをとりまく現状について考えるとともに,生涯にわたって健康な生活を送るために必要な知識について解説する。

心理学(1) 038

Psychology(1)

心理学の基本領域のひとつである学習と動機づけを中心として自己および他者の行動,またその変容について理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく,自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

心理学(2) 039

Psychology(2)

人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として,遺伝,環境,自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく,自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

心理学概論 040

Basic Psychology

「心理学」がひとつの科学としてどのように発展してきたのかを,最新の知見を通して学んでいきます。いろいろな分野・領域の心理学に触れ,心の不思議さやその仕組みを理解し,自己や他者への洞察を進めていきます。また,生涯にわたる自己変革と豊かな人間関係を築いていけるような学習者としての資質向上をはかることを目指します。

心理学入門 041

Introduction to Psychology

ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは,知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの,したがって人間が自身で作り出すものとみなす見方,もう一つは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの,人間と環境が相互的に構成するものとみなす見方である。前者は私たちには馴染みが深く,現代心理学の主流派の見方で,そこから認知科学なども派生してきた。他方,後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ,近代に特徴的な心身二元論を超越しており,今後,革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか,アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。

社会とジェンダー 042

Gender in Society

ジェンダーとは社会的に作られた性別,性差という意味である。「男は仕事,女は家事」といった性別役割分担など,この社会で観察される多くの「性差」の大部分は従来,自然なことだと考えられてきた。それに対し,ジェンダーという概念は,これらの性差は自然でも,必然でもなく,社会的に構築されたものだと捉える視点を与える。本授業では,私たちを取り巻く社会の課題をジェンダーの視点で考察し,人々の生活と日本の政治・法律・社会制度と国際社会との関連などを理解する。

国際化と異文化理解 043

Globalization and Intercultural Understanding

国際化が進む現代社会では,様々な文化背景の人々と関わり協力することが必須である。私たちの日常生活や子どもを取り巻く環境においても,異文化と多文化共生について理解を深める必要性は高まっている。日本の文化や保育について再認識し,異文化間で生じる問題と対処方法について理解を深めることを目指す。自分と異なる文化を持つ他の民族に関心を寄せ,尊重し理解すること,さらに幼児期の発達上の問題をふまえて実際に関わる方法を探る。

日本文化の伝承 044

Transmission of Japanese Culture

日本文化の一つである茶道は華道・香道・能・狂言といった芸能など様々な伝統文化が活かされてる。

この講義ではその茶道が現代でどのような役割を果たしているのか,茶道の歴史をさかのぼり茶道の真意・

点前の意義・懐石の意味やマナー，茶室などの数寄屋建築といった衣食住の重要性を学びます。

現代を生きる知恵を学びましょう。

論理学(1) 045

Logic(1)

論理学は推論(前提からある主張を結論として導き出すこと)について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが(前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが)，それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では，「タブローの方法」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる)。また，そうした学習を通じて論理というものについての理解を深めてもらうとともに，論理的に考える能力を養うことも目的とする。

論理学(2) 046

Logic(2)

論理学は推論(前提からある主張を結論として導き出すこと)について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが(前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが)，それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では，「自然演繹」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる)。また，そうした学習を通じて論理というものについて考えを深めてもらうとともに，論理的に考える能力を養うことも目的とする。

生活とメディア 047

Media and Society

人間科学部カリキュラムポリシー１に則り，本講義では，日常的なメディアや，メディア利用状況をとりあげ，それらが私たちの生活にどのような影響を与えているかを論じる．具体的には，プリクラやケータイ小説，SNSといった，私たちの認識や思考に強く染み込んだメディアについて，認知科学や社会文化学的の観点から概説する．またあわせて，講義の後半では今日的な場のデザインや文化構築とメディアとの関係をとりあげる．

In this course, the examples of fieldwork studies in mundane daily life and workplace are introduced. This Class is designed to help students develop critical reading about media culture. During the semester I will explain the articles of media studies in sociology and cognitive phychology.

公衆衛生学 048

Public Health

豊かな人間性に根差した学際的教養と「知」の基盤となる横断的基礎知識として本科目の概要は以下の通りである。

共同社会の組織的な努力を通じて，疾病を予防し，生命を延長し，身体的・精神的・社会的健康を保持・増進を図るため，母子保健，環境保健，産業保健・労働衛生，疾病予防，保健・福祉，健康教育，健康管理，衛生行政，医療制度および社会保障などの基本的概念をを学ぶ。また，プライマリ・ヘルス・ケアおよびヘルスプロモーションの概念を学び，さらに，集団での各種疾病や中毒の予防，診断などについて，疫学，統計学などの技術を学び，科学的根拠に基づいたデータの評価方法を知り，応用として，健康教育・政策・管理が自ら立案できるよう学習する。具体的には，シラバスにそって，公衆衛生の観点に立って健康を意識し，視野を高めると同時に，自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育する。公衆衛生学の学習は，保育所や幼稚園など集団生活を営む機関において，特に就学前の成長・発達の著しい園児の健康の保持，増進を図る上で，極めて重要であるばかりでなく，そこで働く保育・教育者の健康の保持・増進においても，最も基本的で重要である。

現代の物理 049

Contemporary Physics

２０世紀に大きな発展を遂げた現代の物理は，科学の多くの分野と関連し，環境や情報を含む技術の重要な基礎となっている。社会は科学と技術の発展を基に作られているので，誰でも物理学を学ぶことが望ましい。この講義では，大事で面白いテーマを，できるだけわかりやすく取り上げる。

科学技術と社会 050

Science, Technology and Society

現代の社会は，科学と技術の発展をもとに作られていて，科学と技術は社会に不可欠の要素である。しかし，一方で，科学技術は我々の意識の中で縁遠くなりつつあり，地域－地球環境問題のような負の影響も無視できない。この講義では，科学と技術の歴史をふまえ，それらと社会とのかかわりを具体的に考察する。

情報処理演習(1) 051

Seminar on Information Technology(1)

情報化された現代社会におけるコンピュータやインターネット，情報の役割と意義について考え，必要な知識と技能，さらにはこれらを使いこなす知恵を養うことを目的とし，情報倫理について学ぶ。また，コンピュー

タソフトウェア「Microsoft Office」に内包される基本ソフトウェア「Microsoft Word」の操作方法を習得し，幼稚園や保育所などの職場環境で多用される文書作成のスキルアップを目指す。
情報機器を活用した今日的なビジュアルコミュニケーションを具現化することに主眼を置き，文字・画像を含めた様々な情報を訴求対象者にいかに美しくかつ機能的に伝達するかということをテーマに文書作成実習を行う。

情報処理演習(2) 052

Seminar on Information Technology(2)

「Microsoft Office」に内包される基本ソフトウェア「Microsoft Excel」「Microsoft PowerPoint」の操作方法を習得し，教育実務や保育実務において必須となる情報機器を活用した表計算やデータベース機能，グラフ作成，さらにはプレゼンテーション作成について習得する。

情報処理演習(3) 053

Seminar on Information Technology(3)

今日では幼稚園や保育所などの教育・保育環境において視覚化されたデジタル情報をコミュニケーションツールとして活用することが一般化し，デジタルフォトの管理，スライドショー，インターネットによる情報発信などに関するスキルが求められつつある。そういった時代背景を踏まえ，画像についての知識を習得しPhotoshop Elements による簡単な写真加工の技術を学ぶ。次に，Dreamweaver にて簡単なＷＥＢページを作成し学内にアップロード，ＷＥＢサイトの仕組みを学ぶ。また，コンピュータ機器を活用した視聴覚コンテンツ制作の基本を学びながら，情報処理演習（１）～（２）で学んだ Office アプリケーションについても，より使いこなせるよう実習する。

情報処理演習(4) 054

Seminar on Information Technology(4)

今日では幼稚園や保育所などの教育・保育環境において視覚化されたデジタル情報をコミュニケーションツールとして活用することが一般化し，スライドショー，動画作成などに関するスキルが求められつつある。

情報処理演習（１）～（３）で学んだ Office アプリケーションや，画像加工の知識を生かし，グループで問題を設定し解決し，プレゼンテーション作成・発表を行う。

次に Windows ムービーメーカーを使用し，ムービー作成を行う。

PBL による産学協働演習 055

Industry-University Collaborative Practice on Project Based Learning

ボランティア(1)～(2) 056～057

Volunteer(1)～(2)

学生の自発的な意志により，個人が持っている能力あるいは労力をもって災害，人権，福祉，平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動を経験するものである。得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し，単位認定を行う。

教養ゼミナール(1)～(2) 058～059

Cultural Seminar(1)～(2)

この科目は，名称・内容ともに各教員の積極的な提案により，双方向性を前提として少人数の学生を対象に開講する。学生はこの科目において，教員の熱意と蘊蓄を傾けたゼミ内容に魅せられるであろう。また，少人数で学年・学科を問わず履修できるので学生同士や教員との人間的な交流も深められるはずで，学生にとっても極めて有益であろう。

なお，教養ゼミナールは，４単位まで「教養科目」区分の卒業要件として認められる。開講されるゼミは，年度によっても異なるので，時間割等で確認すること。

教養特別講義(1)(2) 060～061

Special Lecture of the Liberal Arts(1)(2)

外国語科目

Study Skills 062

Study Skills

英文法の基礎を学び，１年生後期科目の Reading & Writing(1)，２年生科目の Reading & Writing (2)，および TOEIC Preparation に必要な英語基礎力を養成することを目的とする。

Communication Skills(1) 063

Communication Skills(1)

The aim of Communication Skills (1) is to improve the English communication skills of students in both listening and speaking. The courses introduce the fundamental principles and practices of communication which students can apply in their daily lives. The courses focus on two primary components as labelled at the CEFR A2 and B1 level. The first is informational listening: students will be trained to a) catch the main point in short, clear,

and simple messages; b) generally follow the main points of extended talks and announcement; and c) find specific information in a clearly-produced speech. The second is communicative production: students will practice producing a simple description or presentation of ordinary subjects by utilising a short series of simple phrases and sentences. The classes will also cultivate confidence and competence in using English, preparing students for future learning opportunities, such as elective courses and training for English proficiency tests.

Communication Skills(2) 064

Communication Skills(2)

In this course, students will be immersed in English and will focus on improving their communication skills in listening and speaking.

Reading and Writing(1) 065

Reading and Writing(1)

This course is designed to help students (1) become familiar with a critical thinking and academic skills and (2) learn to integrate grammatical knowledge and reading strategy, so as (3) to be able to improve your reading and writing skills through the practice of vocabulary enrichment, reading comprehension exercises, written responses, discussions, and reflections.

The students in this course will be studying how to analyze, synthesize, apply knowledge, and develop an individual voice around a topic of the textbook. The interplay of the reading and writing will lead the students to more deeper understanding of the world. Each class meeting will be fun and exciting to learn English.

Reading and Writing(2) 066

Reading and Writing(2)

様々な内容の英文を読み，的確に理解し，それに関する意見等を英語で書く練習をすることにより，読解力と表現力の向上，論理的かつ批判的な思考力の養成を目指す。全学共通テキストを使用し，同じ学習項目を共有するが，各担当教員が個性を生かした授業を行う。

TOEIC Preparation 067

TOEIC Preparation

TOEIC Preparation の目的は，TOEIC 試験のような標準英語力テストで高い得点を得るために必要なスキルセットを向上させることである。東京都市大学の学生全員は，学期終了時に TOEIC 試験を受験するので，TOEIC 試験での成績を上げるためのスキルと戦略にフォーカスを置いている。そのため，リスニングとリーディングのスキルに重点を置いているが，スピーキングとライティングを授業に含める可能性もある。また，速読は TOEIC などの標準英語力テストの重要スキルの１つであるため，受講する学生は東京都市大学の図書館で提供される多読マラソンプログラムに参加するように促す。

英語でライティング＆プレゼンテーション 068

Academic Writing and Presentation

Students will prepare and give presentations in English about a variety of subjects each week. There will be a question-and-answer session after each presentation and each student will be expected to participate actively. After each session, the instructor will make comments that will contribute to the students' ability to communicate in English. Access to the Internet will be available in every class.

アカデミック・イングリッシュ・セミナー 069

Academic English Seminar

The aim of the course will be to help students acquire public presentation skills that are needed in academic environment by practicing methods and techniques used in the forms of oral discourse. Students will also learn how to deliver a presentation with acceptable posture, eye contact, and voice inflection in English.

Advanced TOEIC 070

Advanced TOEIC

TOEIC(Listeing & Reading)は漫然と受験を続けてもなかなかスコアアップしない。「速すぎる」リスニング問題と「多すぎる」リーディング問題をどうやってこなせばよいのか。この授業ではまず，TOEIC の典型的な出題形式の問題を解き，その中で自分のウイークポイントを正確に把握する。次にその誤りの原因と，正しい解き方を理解し，確実に身につけらるようになるための訓練を行う。出題形式に慣れること，「繰り返し」聴くこと，そして「丁寧に」読むこと，この３要素をバランスをとりながら勉強していく。

英語読解力養成 071

Advanced Reading

精読とは異なるアプローチにより，英語を英語のまま理解し，味わい，楽しむ力を伸ばし，自律的な読み手となってもらうことを目指す。これにより幅広く深い教養と国際的コミュニケーション能力を修得するための礎を築く。

特に，英文（主としてパラグラフ単位）の構造を理解することと，未知語の意味を推測する力を養うことを柱とし，辞書を引かずに概要を素早く把握することができるように導く。また速読と多読演習を並行して行うことで大量の英文を読んでもらい，力をつけていく。

海外・特別選抜セミナー 072

English seminar for Overseas Study

英語文法トレーニング 073

English Grammar

文法は言葉における法律と言える。その内容は多岐にわたるが，このクラスは日本人学習者にとり必ずしも容易ではない「動詞」と「準動詞」に焦点をあて，理解度の向上を目標とする。動詞はコミュニケーションでは中核を構成する最も重要な内容語（品詞）であるが，その意味は多様な構文・用法とも密接に関連している。授業では動詞及び準動詞の基本を説明し，練習問題で理解を促進させ，さらに英語表現でも活用できる英語力の向上を目指す。なお，TOEIC 等の資格試験にも頻出する重要項目でもあり，練習問題をこなし実力向上を目指す。

英語発音・聴解トレーニング 074

English listening comprehension

Students will improve their English proficiency while we work on all four skill areas with a focus on pronunciation. Moreover, students will improve their abilities to communicate in English in various situations. The conversations they will pracctice are the kinds of conveersations they might have when speaking with people from other countries, either here in Japan or when traveling abroad.

キャリア・イングリッシュ 075

English for Career Preparation

This course offers a variety of business situations and environments to introduce students to Business English.

サバイバル・イングリッシュ 076

Survival English

英語の多読多聴を通し，自分の考えを書いたり話したりすることに自信が持てるようになることを目指す。具体的には，多読プロジェクトを行い，ライティングやプレゼンテーションの練習を行う。

ニュースを英語で読む 077

Reading News in English

ニュースを英語で読む。

スポーツで学ぶ英語 078

Learning English through Sports

スポーツに関する新聞や雑誌，ネットの記事を読みながら，英文読解力を強化し，内容について受講者と教員が英語による質疑応答をとおしてコミュニケーション能力を養う。

映画で学ぶ英語 079

Learning English through Movies

この授業では，映像作品を活用して英語を学んでいく。聞き取り，書き取り作業を行いながら，英語の音声に慣れ，様々な英語表現を習得するほか，映画の場面を自分たちで再現することで，英語での発話力の向上につなげる。また，映画に描かれた文化的背景や社会問題を知り，それに関する討論も行いながら異文化理解を深める。

文学で学ぶ英語 080

Learning English through Literature

物語を楽しみながら読み進めることで，英語への理解を深める科目です。

世界的に有名なアメリカ文学作品 The Adventre of Tom Sawyer 『トム・ソーヤーの冒険』を読みます。

作品の登場人物の心情を想像したり，小説の中の奇妙な体験が英語ではどのように表現されるのかを学びます。文字媒体のみならず，視覚や聴覚（映像や朗読）を通じて，物語の世界を体験しましょう。とりわけ，アメリカ文学や文化の話題や作品を中心に学びます。

音楽で学ぶ英語 081

Learning English through Music

世界中で大ヒットとなった最近の曲や，映画やミュージカルなどの芸術作品で歌い，語り継がれてきた名曲，国歌や行事に欠かせない歌など，様々な英語の楽曲を鑑賞しながら学んでいくコースです。英語の歌詞を使って，その文章構造，語彙・イディオム，そして発音，音の省略などを学習することで，内容を味わいながら歌う楽しさを身につけます。歌詞の内容を把握していく過程で，その背後にある社会的，文化的な知識も自然に身につけられると考えます。

Cultural Comparison 082

Cultural Comparison

Modern Society 083

Modern Society

科学技術英語 084

Sci-Tech English

大学や大学院で専門分野を学ぶ際には,英語で書かれた文献・論文等を読む必要があります。さらに，レポート提出や論文を英語で書くことが求められることもあります。この授業では科学技術に関する英文を読みながら,科学技術に関する論文や新聞を読むための語彙力,読解力の向上を目的とします。教科書に加え，語彙力強化のための配布プリントを用いて授業を進めていきます。なお，本講義は少人数クラス（１クラス 20 人以下）で行います。

外国語特別講義(1) 085

Learning English for Specific Purposes(1)

In this course, students will re-learn Japanese history in English. This course will cover from ancient period (Jomon, Yayoi, and Kofun) to the end of World War II. Both political and cultural history of Japan will be focused.

外国語特別講義(2) 086

Learning English for Specific Purposes(2)

ドイツ語(1) 087

German(1)

本科目は，外国語（ドイツ語）の学習を通して，幅広い視野と教養を身に付けることを視野に入れている。具体的には「文法」のみに限らず，授業では「読む」「書く」「聞く」「話す」全てのコミュニケーション活動を総合的に学び,最終的には大学生活に関するテーマで自己表現ができることを目指す。更に，外国語を学ぶ際の様々なテクニックも授業の体験を通して習得する。

This course is designed to acquire a broad view of things and a wide range of education through learning a foreign language (German). Specifically in the lessons the students learn not only ""grammar"" but also comprehensively all communication activities ""reading"" ""writing"" ""listen"" and ""speaking"", finally, they can express themselves regarding the topics related to their college life. Furthermore, various techniques for learning foreign languages are trained through experiences in class.

ドイツ語(2) 088

German(2)

本科目は，外国語（ドイツ語）の学習を通して，幅広い視野と教養を身に付けることを視野に入れている。具体的には「文法」のみに限らず，授業では「読む」「書く」「聞く」「話す」全てのコミュニケーション活動を総合的に学び,最終的には大学生活に関するテーマで自己表現ができることを目指す。更に，外国語を学ぶ際の様々なテクニックも授業の体験を通して習得する。

This course is designed to acquire a broad view of things and a wide range of education through learning a foreign language (German). Specifically in the lessons the students learn not only ""grammar"" but also comprehensively all communication activities ""reading"" ""writing"" ""listen"" and ""speaking"", finally, they can express themselves regarding the topics related to their college life. Furthermore, various techniques for learning foreign languages are trained through experiences in class.

フランス語(1) 089

French(1)

この授業では，前期・後期の一年を通して，外国語（フランス語)の基礎会話の習得を目指す。前期においては,メールやＳＮＳなどで活用できるように,ある程度の長さで，自己紹介に関する作文ができることを，一つの目標に掲げる。また一方で，実際的なコミュニケーションの観点から，自己紹介にかかわる事柄であれば，質疑応答も必ず可能になるべく，鍛錬する。文法事項は最小限に留め，簡単な「質問を理解する」そしてその「質問に応答する」という，反射神経の育成に努める。

フランス語(2) 090

French(2)

この授業では，前期・後期の一年を通して，外国語（フランス語）の基礎会話の習得を目指す。後期のレッスンは，前期に学習した内容を踏まえるが，前期授業を履修できなかった学生がいた場合を考慮し,多少の復習を繰り返しながら進行する。後期においては，フランスをはじめとするヨーロッパの観光名所について,簡単な遣り取りができるようになることを，第一の目標とする。次に，コミュニケーションの要でもある「好きなこと・嫌いなこと」を伝える，さまざまな表現を学習する。

スペイン語(1) 091

Spanish(1)

コミュニケーションに重点を置き,ペアやグループでの会話練習を多く行います。ビデオやゲーム等も用い，基本的なスペイン語会話やスペイン語圏の文化を積極的に吸収してください。

スペイン語(2) 092

Spanish(2)

コミュニケーションに重点を置き，ペアやグループでの会話練習を多く行います。ビデオやゲーム等も用い，基本的なスペイン語会話やスペイン語圏の文化を積極的に吸収してください。

イタリア語(1) 093
Italian(1)

イタリア語(2) 094
Italian(2)

中国語(1) 095
Chinese(1)

中国語の学習はまず発音の習得がなにより重要です。中国語１では中国語のローマ字表記が間違いなく発音できるようになることを目標にし，簡単な中国語を聴き取り，声調（tone）を判断し，なおかつローマ字で表記できることを目指します。簡単な会話や自己紹介も臆さずできる心持ちも育みたいと思います。

中国語(2) 096
Chinese(2)

中国語２（初級）は中国語１で学んだ事柄を土台にして初級レベルの中国語を基礎から学びます。中国語２でも発音は依然として重要な課題であり，反復練習を続けます。さらにより複雑な語法と表現に踏み込み，短文読解を通して中国語独特のロジックを体感することで，今後とも継続して自学自習できる素地を固めたいと思います。会話練習もより実践的な内容になります。また，「中国問題」と呼ばれる事象も取り上げ，現代中国の実状にもアプローチします。

アラビア語(1) 097
Arabic(1)

アラビア語(2) 098
Arabic(2)

韓国語(1) 099
Korean(1)

韓国語をはじめましょう！　自己紹介，日常会話で基礎力をつけ，読み書きにも挑戦！韓流トークもあり

韓国語(2) 100
Korean(2)

韓国語の表現をもっと覚えて，K-POP にチャレンジしよう。

体育科目

人間と健康 101
Human Life and Health Care

人間を身体的，精神的，社会的な側面から捉え，人間にとって「健康とは何か」を探求することが，ＱＯＬ（Quality of Life）;「生活の質」を向上させるために重要である。様々な側面から健康とは何かを探求し，自己の生活スタイルをみつめなおし，自分の健康を的確に把握できる能力を養う。さらに，自己のダイエット行動や運動習慣を見直し，各ライフステージに応じた健康づくりのための，栄養･運動･休養を基礎とした適切な生活スタイルを確立する能力を養う。また，保育に携わる者は，将来，子どもを持つ親（特に母親）をサポートする立場になり，女性のライフサイクルについて学ぶことは必須であり，女性特有のライフサイクルと健康についても学ぶ。

健康と運動(1) 102
Health and Sport(1)

運動・スポーツの基礎的な技能，知識，態度を学ぶ。

身体能力や運動経験にかかわらず，積極的に各種スポーツに取り組むことによって，運動の楽しさや運動が心身の健康に及ぼす効果を再確認し，生涯スポーツを展望できる素養を身につける。

さらに様々なスポーツ・運動種目の体験を通して，チームワークやリーダーシップ等のコミュニケーション能力を養う。

なお，「健康と運動（１）」では主に球技種目を取り上げる。

健康と運動(2) 103
Health and Sport(2)

運動・スポーツの基礎的な技能，知識，態度を学ぶ。自己の身体能力や運動経験にかかわらず，積極的に各種スポーツに取り組むことによって，運動の楽しさや運動が心身の健康に及ぼす様々な効果を再確認し，生涯のスポーツ生活を展望できる素養を身につけ，心身の健康の保持増進と基礎的体力の向上を図る。さらに様々なスポーツ・運動種目の体験を通して，チームワークやリーダーシップ等のコミュニケーション能力を養うと同時に指導的立場でのゲーム展開や基礎練習の進め方にも触れる。なお，「健康と運動（２）」ではマット運動や身体表現・ダンスなど，子どもの運動遊びの指導・援助に必要な基礎技能を修得する。

専門科目

保育原理 104

Principles of Early Childhood Care and Education

この授業は,保育という営みについて幅広い観点から学びを深め,保育者の専門性の根幹をなす基礎的な素養を身につけることを目的とする。特に（1）保育をめぐる今日的状況をはじめ,（2）保育に関わる法律や制度,（3）児童福祉と保育の理念,（4）保育の具体的な内容や方法,（5）保育の歴史・思想,（6）保育者の専門性,（7）保護者支援と子育て支援,（8）特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応,といった内容に関わる基礎的な知識を習得する。

教育原理 105

Principles of Education

「教育」とは何でしょうか。「教えること」,「学ぶこと」,「育つこと」はどのように結びついているのでしょうか。教師や保育者の「専門性」とは何でしょうか。これらの疑問に対する答えは,教育や学習に関わる幅広い知識と,深い思索の中で一人一人が見出していくものです。この講義では「教育」という営みについて一人一人が考えを深めていくための基本的な知識を,「理論」と「実践」との両側面から身につけていくことを目指します。

児童家庭福祉(1) 106

Child and Family Welfare(1)

「児童の権利条約」が国連で採択された後も,児童の貧困や虐待等,児童の権利侵害の事例は依然として後を断たない。「児童家庭福祉（1）」では,児童家庭福祉の歴史的変遷,現状と課題,動向と展望のほか,児童の権利や発達を保障するための児童福祉の仕組み,諸制度,援助の方法など,保育者として必要となる児童家庭福祉に関する内容が体系的に学べるように進めていく。また,福祉施設での実習も念頭に置き,現場で役立つ知識の習得を目指す。

社会福祉 107

Social Welfare

現代社会の変化とともに,離婚,児童虐待,リストラ,高齢者介護,貧困など,多様な問題が顕在化し,福祉の重要性が社会的に浸透されてきている。本講義では,社会福祉の各領域を概観しながら,社会福祉の意義,歴史的変遷,制度・政策,相談援助,社会福祉の動向と課題等について幅広く学び,理解を深める。また,適宜,社会福祉活動の実践事例などを活用しながら授業を進める。

相談援助 108

Basic Counseling Skills

ソーシャルワークの基礎的な技能を学びながら,保育・福祉の場面において保育士に求められる相談援助の方法及び技術について理解を深める。また,グループワークや事例検討,ディスカッションを通して,保育の現場で起きる事例を疑似体験し,相談援助におけるより確かな実践力を身につける。

社会的養護(1) 109

Nursing and Care in Society(1)

要保護児童対策が中心であった時代から,現代は家庭の子育て機能の低下による要支援児童を含めた問題への対策が求められている。本講義では,現代社会における児童虐待の現状と課題,社会的養護の体系,政策,理念等,社会的養護に関する基本的事項について学ぶ。また,社会的養護にかかわる児童福祉施設等における現状と役割等について,理解することを目指す。

保育者論 110

Theories and Techniques for Kindergarten and Nursery School Teachers

より良い教育・保育実践を実現するためには,保育者の本質を理解するとともに豊かな人格形成及び資質向上を目指した不断の取り組みが必要である。

この授業では,幼稚園教諭,保育士,保育教諭など教育・保育者について,その法的根拠や制度的位置付けのみならず,職務内容や責務,倫理,専門性など多角的な視点から考察し,今日望まれている保育者像について学んでいく。また,多様化する今日的課題への解決に向けて,多職種連携のあり方や保育者間の協働等,チームアプローチの方法論について具体的なイメージを確立しながら学んでいくと同時に実践力を培っていく。

発達心理学(1) 111

Developmental Psychology(1)

発達心理学は生涯にわたる発達をとらえる学問である。保育者は一人ひとりの子どもの発達を的確にとらえることが必要である。本授業では,人間の受精・誕生,死までの発達過程を理解することを目的とし,胎児期から老年期までの一生涯を「発達的にみる」という視点を養う。また,履修者のほとんどが保育者をめざしていることから,乳幼児期の理解に時間を多くとっている。そして,実践につながる発達理解ができるよう視聴覚教材や事例なども取り入れながら子どもの発達を的確にとらえる力を養成すると同時に,発達にそった適切な援助・支援ができるよう指導する。さらに,学生自身のこれまでの発達を振り返り,将来,保育者として,あるい

は，親としての成長の過程を見通すことができるよう援助していく。なお，保育士養成課程カリキュラムの改正に伴い，「保育の心理学Ⅰ」の教科書を用い，保育実践とも深く関連づけながら理解できるよう展開していく。

教育心理学 112

Educational Psychology

教育心理学の基本的な事項を理解し，保育や教育への具体的な実践へとつなげていく。さらに，生涯発達的観点から幼児期から青年期までの発達に応じた保育と教育のあり方について学んでいく。特に，幼稚園・保育園期の子どもは生活や遊びを通してさまざまなことを学習し，それが生涯にわたる学習を支える基盤となる。乳幼児期の生活や遊びを通しての学習の重要性，およびその学習の過程について十分に理解を深める。また，最近教育・保育現場で課題となっている特別な支援を必要とする子どもについても具体的事例をもとに考えていく。

子どもの保健(1) 113

Child Health(1)

児童の教育・保育および子育て支援の分野に関連する科目であり概要は以下の通りである。

1．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2．子どもの身体発育や生理機能及び運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3．子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
4．子どもの精神保健とその課題などについて理解する。
5．保育における環境及び衛生管理ならびに安全の実施体制について理解する。
6．施設などにおける子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

子どもの保健(2) 114

Child Health(2)

児童の教育・保育および子育て支援の分野に関連する科目であり概要は以下の通りである。

1．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2．子どもの身体発育や生理機能及び運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3．子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
4．子どもの精神保健とその課題などについて理解する。
5．保育における環境及び衛生管理ならびに安全の実施体制について理解する。
6．施設などにおける子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

子どもの保健(3) 115

Child Health(3)

「子どもの保健(1)」「子どもの保健(2)」で学んだ知識を基礎に，実習を通して乳幼児の保育に必要な知識，技術，態度を習得する。保育と保健，看護の連携について知り，乳幼児の健康観察の方法，成長・発達の測定法と評価，生理機能の観察と測定方法，養護技術，病気や事故に対する予防と対処方法の実際を学ぶ。子どもが突発的に事故災害や病気によって不測の事態に陥ったときに敏速に判断し，適切な救急処置が行えるようその基本原則と技術を習得する。さらに集団保育における保健計画および保健活動の実際について学ぶ。

子どもの食と栄養 116

Child Nutrition and Food

児童の教育・保育および子育て支援の分野に関連する科目であり概要は以下の通りである。食と栄養に関する基礎知識およびその意義について学び，子どもの発育・発達，健康に及ぼす食と栄養の役割を理解する。また子どもの食と栄養の中で，食育の果たす役割を地域社会・食文化と関連づけて理解する。さらに，家庭や児童福祉施設の現状と抱える課題，特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。

家庭支援論 117

Family Support

近年，子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境は大きく変化してきている。また，それに呼応して，子育て不安や負担感が増大しつつあり，子育て家庭全般にわたっての大きな課題となっている。加えて，地域社会の質的変容により，子育て家庭の孤立化が進み，子育てを社会全体で支える仕組みや支援体制作りは待ったなしの状況である。この科目では，家庭のそのものの意義や機能に着目しながら，子育て家庭への支援のあり方や多様なニーズに応じた取り組みについて深く学んでいく。

カリキュラム論 118

Curriculum

「カリキュラム」の語源は，ラテン語の「走る道」を指す言葉とされています。もともとは，人生の履歴という意味を含み持つ言葉でしたが，今日の教育の文脈では，教育や保育の具体的な内容を示す言葉として使われています。この授業ではカリキュラムについて二つの側面から学びます。一つ目の側面は，行政が告示する「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」，「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される教育や保育の内容に関わるものです。二つ目の側面は，それぞれの教育・保育機関において，教師や保育士と子どもが日々の生活を

通して共に作り上げていく「学びの履歴」として表現できるものです。教育や保育の現場は，こうしたカリキュラムの二つの側面の間で日々の実践や生活を創っていくことになります。以上のことをふまえて授業の最終課題では教師・保育士が創造する学びの履歴という視点から，自由な発想に基づく保育計画をデザインしてもらいます。

保育内容総論 119

Early Childhood Care and Education

保育内容5領域「健康」,「人間関係」,「環境」,「言葉」,「表現」を総合的なものとしてとらえるとともに，保育の総合的指導を理解する。子どもの発達を育む「遊び」の理解に重点を置き，子どもにとっての「遊び」の意味と，「遊び」を支える保育者の役割や具体的援助について考えることを通して，保育者としての実践力を獲得する。また遊びと生活を充実させる，保育の計画，実践，評価について学ぶ。

保育内容健康指導法 120

Early Childhood Care and Education: Health

領域「健康」は「健康な心と体を育て，自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼児教育・保育において育みたい資質能力について理解し，幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させ，理解を深め，子どもの発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として掲げられた10の項目を考慮し，指導できる力を身に付ける。

保育内容人間関係指導法 121

Early Childhood Care and Education: Human Relationships

乳幼児期は，人と関わり合って生活していく生き方の土台を築く時期であり，子どもが人への信頼と関心を深めていけるよう，保育者のかかわりや配慮が重要な役割を持つ。本授業では，受講者自身の人間関係を見つめることから始め，領域「人間関係」を学ぶ意義を把握した上で，乳幼児の人間関係を豊かにしていくための保育者のかかわりについて考えていく。

保育内容環境指導法 122

Early Childhood Care and Education: Environment

子どもと環境をつなぐ保育者の役割について学ぶ。まずは，地球環境の変貌と人間の生活とのあり方との関係についての理解を図り，より良い環境をととのえるために必要なことを学ぶ。そこから，子どものためのより良い環境のあり方を理解し，改めて保育者の役割を考える。

保育内容言葉指導法 123

Early Childhood Care and Education: Language

子どもの総合的発達における言葉の獲得に関する領域について，保育の目標を達成するために，子どもの状況に応じて保育者が適切に行うべき援助について検討する。0歳から就学前までの子どもの言葉の発達過程を的確にとらえ，子どもの生活・遊びと言葉の関わりについて考察する。言葉の育ちにおける集団の果たす役割や言葉を育てる保育者の援助のあり方を，事例等を通して具体的に検討する。言葉を育てる環境構成，多様な言葉の獲得を促す絵本・紙芝居・人形劇などの児童文化財の活用について理解を深める。また，保育における言葉でのかかわりの持ちにくい子どもの援助についても理解を深める。

保育内容表現指導法 124

Early Childhood Care and Education: Expression

保育所・幼稚園において，保育の目標を達成するために，子どもの状況に応じて保育者が適切に行うべき基礎的な事項及び保育者が援助する事項について，子どもの発達を踏まえながら，特に感性と表現に関する領域について学ぶ。さまざまな表現活動を通して，表現者としての保育者の素養を身につける。そして，子どもが表現したいという意欲を育てるための援助と指導について考える。

乳児保育(1) 125

Infant Care and Education (1)

乳幼児（主に0歳から3歳）の発達を理解し，保育者として子どもが心身ともに豊かに育つためにどのような援助が考えられるのかを検討していく。保育者としての必要な理論，技術，知識を理解するだけではなく，子どもの生命の尊さ，命を育むことの意義を考え，保育の実践力を身につけることを目標とする。

障害児保育 126

Early Childhood Care and Educaion for Handicapped Children

障害には様々な種類があり，保育の場面においてはそれぞれの障害に応じた関わりや指導がますます必要となってきている。この科目では，障害全般について学習するだけではなく，実態把握の仕方やそれぞれの特性に応じた具体的な支援の方法などを具体的に学んでいく。また，障害児保育では個別的アプローチの必要性が高い

ことから，個別計画の作成方法についても触れていく。特に実践の場面を想定して，多くの保育現場において対応が困難となっている自閉症スペクトラムについては，詳細な検討を加える。

社会的養護内容 127

Practical Nursing and Care in Society

児童虐待の深刻化や家庭機能の弱体化などにより家族とともに生活することができない子どもたちに対して，社会全体が今後どのように支援していかなければならないかについて理解を深める。また，児童の権利擁護を意識しながら，子どもの心のとらえ方や保育士の倫理についても深く考察していく。さらに福祉現場における実践力を培うため，虐待等の事例研究，ディスカッションによる課題整理，ロールプレイイングによる共感性の獲得トレーニングなどを積極的に取り入れていく。

保育相談支援 128

Special Skills in Family Counseling

子育てを取り巻く環境の変化に伴い，子どもやその保護者が抱える課題は年々複雑化・多様化している。殊に教育・福祉現場において保育士の専門性を生かした保護者支援の取り組みがあらゆる場面で必要とされており，保育者にとっての重要なスキルのひとつとなっている。いる。本授業では，保育相談支援の意義や基本的視点を学び，保護者支援の方法及び技術について理解を深めるとともに，ロールプレイイング，模擬ケースワーク・グループワークなどを行い，保育相談支援におけるより確かな実践力を身に付けていく。

保育の表現技術（音楽表現）(1) 129

Expressions in Music(1)

保育士及び幼稚園教諭の各資格を取得するための必修科目であり，保育実践において保育者が子どもと共に歌ったり，踊ったりすることを楽しむ活動を展開するために必要となるピアノ演奏技術，歌唱表現技術のうち最も基礎的なものをクラス授業と個人レッスンによって習得させる。クラス授業では，楽譜が読めるようになるために，五線譜，音部記号，音符，休符，拍子記号等の楽譜の規則（楽典）についての説明と覚えるための練習を行う。レッスンでは，ピアノ実技と簡単な子どもの歌の弾き歌いを行う。

保育の表現技術（音楽表現）(2) 130

Expressions in Music(2)

保育士及び幼稚園教諭の各資格を取得するための必修科目であり，保育実践において，保育者が子どもと共に歌ったり，踊ったりすることを楽しむ活動を展開するために必要となる読譜能力，ピアノ演奏技術，歌唱表現技術を高め，より音楽的な演奏として展開されるような技術や構えを習得させる。また，童謡やわらべうたなどのいろいろな子どもの歌や歌遊びを経験し，その音楽的特質を身体的に習得させる。

保育の表現技術（造形表現）(1) 131

Expressions in Arts and Crafts(1)

保育現場で必要とされる造形的な知識・技術・能力の基本となる内容について，様々な素材・用具・技法を用いながら，体験を通して学んでいく。　※制作状況に応じて，順序や時間数が変更になる事があります。

保育の表現技術（造形表現）(2) 132

Expressions in Arts and Crafts(2)

基礎表現技術を確認しつつ，応用に結びつける意味で「自己紹介カード」や保育環境に関する「壁面制作」や導入教材「パネルシアター」などの制作に取り組む。その際，簡単な「指導案」も作成し，お互いの発表を通して「導入」の工夫や方法についてまとめていく。

個人制作だけではなく，グループワークによる課題にも取り組みます。

保育の表現技術（身体表現） 133

Expressions in Movement Activities

身体全体を使ってあそぶ運動遊びは，体力や運動能力の発達を促すのみならず，運動欲求を満足させ，情緒を安定させる効果を期待できるなど，身体的，精神的，社会的発達に深く意義が認められ，子どもの発達に欠くことができないものである。乳幼児期の発達段階に応じた様々な運動遊びを自ら体験し，自発的に身体を動かして遊ぶ楽しさとその重要性を学ぶ。また，学生が将来保育者として，生き生きと動けるからだを獲得するため，様々な身体運動を体験する。子どもの心と身体，安全への配慮をし，子どもの遊びを豊かに展開するための保育者としての指導・援助や環境構成の創意・工夫を検討する。

保育の表現技術（言語表現） 134

Epressions in Language

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育と保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ，表現の領域のねらい及び内容を理解し，具体的な表現の領域における言語表現の援助・指導場面を想定して保育を構想する具体的方法をアクテビティを通して学ぶ。

保育実習(1)（保育所・施設） 135

Practical Training for Children in Nursery and Welfare Institution(1)

保育所,保育所以外の児童福祉施設等での実習を通して，子ども理解や保育士の業務内容，職業倫理，子どもの最善の利益の具体化について理解する。また，既習の教科内容を基礎とし,子どもや保護者への支援等についても総合的に学び，実践力を培う。保育実習指導(1)の(保育所)および(施設)で主に事前指導,事後指導を行うので，保育実習指導(1)の(保育所)および(施設)の授業とは連動する。実習は，保育所で９０時間以上，そのほかの児童福祉施設において９０時間以上を実施する,実習巡回指導では,各施設の理念や地域活動への配慮を聴取しながら，学生の実習状況を把握し指導にあたる。

保育実習指導(1)（保育所） 136

Practical Training in Nursery(1)

保育実習(1)保育所が円滑に進められるよう，保育実習の意義や目的を理解し，保育実習(1)a に必要な知識,技術だけでなく,実習生としてのふさわしい立ち居振る舞い，身だしなみも習得する。事前指導として，学習の目標を明確化し，実習に臨む心構え，倫理綱領，保育所保育指針などを理解するとともに，観察の方法，記録の方法，実践に必要な保育実技などを習得する。事後指導として，実習の総括および自己評価を行い，今後の学習目標や課題を明確化する。

保育実習指導(1)（施設） 137

Practical Training in Welfare Institutions(1)

保育実習指導(1)(施設)＜保育所以外の施設実習に関する指導＞

保育実習(1)(施設)が円滑に進められるよう，保育実習の意義や目的を理解し，保育実習(1)(施設)に必要な知識，技術だけでなく，実習生としてのふさわしい態度や取り組み姿勢を習得する。事前指導として，学習の目標を明確化し,実習に臨む心構え,実習を行う施設の概要,虐待や障がい等を有する特別な配慮を必要な子どもたちについて理解するとともに,観察の方法,記録の方法,実践に必要な保育実技などを習得する。事後指導として,実習の総括および自己評価を行い,今後の学習目標や課題を明確化する。

保育実習(2)（保育所） 138

Practical Training for Children in Nursery(2)

保育実習（1）並びに保育実習指導（1）を履修し，さらに理論的学習を積み上げた学生が保育士資格取得の最終仕上げとして保育所で行う選択必修科目である。実習内容は責任実習を含み,責任実習指導案を作成し実際の養護・教育を体験し現場の園長や保育士から指導，評価を頂く中で,子ども理解,保育士としての知識,技術,役割について理解を深め,現場での実践力を培うことを目的とする。保育実習指導（2）において事前指導，事後指導を行うので，保育実習指導（2）の授業とは連動する。実習は 90 時間以上を実施する。実習巡回指導では，各園の理念や保育の実情を聴取しながら，学生の実習状況を把握し指導にあたる。

保育実習指導(2)（保育所） 139

Practical Training in Nursery(2)

保育実習(2)(通所施設としての保育所)保育実習(3)（入所施設を主体とするその他の児童福祉施設）が円滑に進めるために,保育所または施設のどちらかを選択し,子ども理解，保育士としての知識，技術，社会的役割について習得する選択必修科目である。保育所または福祉施設において,子どもの最善の利益を守るためにどのように専門的実践が行われているのかを学び,実習のみならず社会人として現場で働くことの厳しさ,喜びを体験し，現場で通用する保育実践力を習得する。

保育所実習（２）を選択した者の事前指導は，保育実習（１）保育実習で学んだことを生かしながら，積極的に様々な保育の形態に関わりを持ち可能な範囲で責任を持ち実習を体験するために，実践的な養護・教育の指導技術を高め,多様な保育ニーズについての具体的な保育の実際を具体的な実践例から学ぶ。事後指導では実習の評価，実習発表会，自己評価，今後の課題，目標を明確化する。

保育実習(3)（施設） 140

Practical Training for Children in Welfare Institution(3)

保育実習（1）並びに保育実習指導（施設）を履修し，さらに理論的学習を積み上げた学生が保育士資格取得の最終仕上げとして,入所施設を主体とするその他の児童福祉施設等で行う選択必修科目である。

実習内容は保育実習（1）で行った，特別な配慮を必要としている利用児(者)に対しての援助を基本として取り組む。さらに今回実習を行う施設において，実際の養護・保育・福祉を体験し，現場の施設長や保育士・その他の専門職から指導，評価を頂く中で，子ども理解，保育士としての知識・技術・役割について理解を深め，現場での実践力を培うことを目的とする。実習は 90 時間以上を実施する。実習巡回指導では，各施設の理念や保育の実情を聴取しながら,学生の実習状況を把握し指導にあたる。

保育実習指導(3)（施設） 141

Practical Training in Welfare Institution(3)

保育所または施設のどちらかを選択し，育実習（3）（入所施設を主体とするその他の児童福祉施設）を円滑に進めるために，子ども理解，保育士としての知識，技術，社会的役割について習得する選択必修科目である。保育所または福祉施設において，子どもの最善の利益を守るためにどのように専門的実践が行われているのかを学び，実習のみならず社会人として現場で働くことの厳しさ，喜びを体験し，現場で通用する保育実践力を習得する。
施設実習（３）を選択した者の事前指導は，保育実習（１）で学んだことを生かしながら，積極的に様々な形態の施設に関わりを持ち，その機能と特性，社会的役割を学習する。また，社会福祉施設従事者としての実践的な支援技術を高め，多様な福祉ニーズに応えるための具体的な支援の実際を具体的な実践例から学ぶ。事後指導では個別面接を行い実習の評価，実習報告，自己評価，今後の課題，目標を明確化する。

保育・教職実践演習（幼稚園） 142

Seminar of Child Care and Education in Practice(Kindergarten)

今までに学習した知識や技能を振り返り，それを踏まえて，保育者の専門性に依拠する内容のテーマを設定し，少人数のグループ討論やロールプレイを行う。この中で，自分の意見を発表し，また教員・学生間による意見交換を行い，将来の保育者として学習した知識・技能等が，それぞれの学生に定着しているのか，獲得した知識や技能が実践場面で応用できるのかについて再確認する。また，現職教員・保育者による特別講義を６回実施し，実践の場での保育者の知識・技能の活用を具体的なイメージをもちながら考究する。

授業後に，講義，グループ討論を通した学びを振りかえり，整理し，自己課題についてのレポートを作成する。個々の学生の気づきを大切に，レポートを積み重ねることで，将来の保育者として，専門性と資質能力を向上させるための課題を，自分自身で発見し努力できるようにする。最終的に，教職実践に関する理解をまとめ，自己課題について発表し，受講学生間で共有することで，学びを深める。

社会的養護(2) 143

Nursing and Care in Society(2)

本講義は，社会的養護に至る背景や原因，児童の状況，親子の病理，治療的対応，予防的対応等に関する学習を行う。また，施設養護の基本原理や現状について，調査や学生同士のディスカッション，発表を通じて理解を深めるとともに，施設保育士としての支援方法等について学ぶ。

児童家庭福祉(2) 144

Child and Family Welfare(2)

児童家庭福祉（１）で学習した基本的事項を踏まえ，本講義では，専門職としてより深い学びを行う。特に，子育て支援と子どもの権利の２つの事項を深める。子育て支援では，各自治体における子育て支援施策を具体的に調べ，発表・検討する。子どもの権利では，子どもの権利条約を子どもにとってわかりやすい条文になるよう整理・検討する中で，子どもの権利の理解を深める。以上の内容を通じて，子どもや家庭の理解，福祉専門職のあり方を考える。

発達心理学(2) 145

Developmental Psychology(2)

発達心理学（1）をふまえて，主に乳児期，幼児期にわたる発達について理解を深める。保育者の子どもに対する理解のあり方は，子どもの発達に大きな影響を与えるものである。したがって，本授業を通して，子どもの発達を正しくとらえ，子どもの心がどのような状態にあるのかを理解し，保育者として適切な援助ができる力を養成していく。また，乳幼児の日常生活の中から得られる具体的なエピソードを，発達心理学的に分析する練習を通して，子どもを観察する視点を養っていく。さらに，乳幼児期の経験の重要性を知り，保育者と子どもとの関係，保護者と子どもとの関係についても探究していく。

臨床心理学 146

Clinical Psychology

保育者に必要な臨床心理学の知識を学ぶとともに，子どもの発達を臨床心理学的にとらえるとはどういうことなのかについて考えていく。また，子どもの発達を客観的に把握する手段としての発達検査，スクリーニングテストについての理解を深める。その中で，発達全体をスクリーニングする質問紙検査，子どもの描画から発達を把握する検査，子どもの社会的認知発達をスクリーニングする検査などを紹介する予定である。さらに，子どもに関わる仕事に携わる者は，自己理解を深め，自己受容をしておくことが大切である。「自分を知り，他者を知る」ことを目的として，心理テストなどを用いて自己理解を深める。

乳児保育(2) 147

Infant Care and Education (2)

乳児保育（１）で学んだことをさらに深め，3歳未満児の発達と保育について，具体的な実践事例を通して理解する。一人ひとりの発達の過程に応じた援助，具体的な人的・物的環境作りに必要な知識・技術を習得する。様々な演習を行い，実際の保育の在り方を体感する。

保育の表現技術（音楽表現）(3) 148

Expressions in Music(3)

保育の表現技術（音楽表現）(1)(2)で習得した基礎をもとに,保育士や幼稚園教諭として必要な演奏技術をより向上させ，またそのためにアンサンブルを経験させ,音楽の共同性の楽しさと意義を実感させる。具体的には,既習の楽典知識を復習することによる知識の定着と,調子記号の習得によって楽譜の理解をより深める。また,連弾によって他者と共同して音楽を創り出す楽しみを体験させることによって,音楽パフォーマンスの共同的側面を学ばせる。

児童文化 149

Children's Culture(1)

子どもを取り巻くさまざまな文化について学ぶ。児童文化史を概観することによって基礎的な知識を習得するとともに,子育て習俗等の伝承文化や現代の子どもの生活文化や遊びについて，また，さまざまな児童文化財等について検討し，考察を深める。

子どもと昔話 150

Folktales

家庭や保育現場で,子どもに語られてきた昔話には私たち現代人へのどのようなメッセージが含まれるのか。絵本や紙芝居に取り上げられている身近な昔話を例に,昔話のテーマやメッセージを理解した上で,基本的知識を習得し,保育者が子どもに昔話を伝える際の留意点と子どもに昔話を伝えることの重要性を学ぶ。

子どもにとって昔話がどのような意味を持つのか深く理解し,最終的に受講生自身が保育者として子どもと昔話を繋ぐ役割を担当する展望が持てるよう専門性を高める。

手話 151

Sign Language

手話の基礎を学び，手話コミュニケーションを体験する。ろう児や難聴児とのコミュニケーションにおける手話の役割を知り,ろう者やろう文化に対しての認識を深める。また，手話の文法を知ることで，ろう者の「ことば」に対する理解,認識を確かなものとする。さらに,手話を習得することで自らの表現を豊かにし,コミュニケーションにおける身体的役割について再確認する。

幼児の生活と遊び 152

Children's Life and Play

乳幼児は日々の生活環境の中で遊びを通して発達していくことを理解する。遊びの内容は成長に伴って変化するが，乳幼児期には，ながい歴史を通して受け継がれてきた伝承遊びに触れることが不可欠である。そして,大人がそばにいること,わらべ歌や自然物に触れることが大切であることを理解し,実習等でも生かせるようになることが，望ましい。

児童文学 153

Studies in Children's Literature

エポックとなった絵本・伝承文学等の作品に触れることを通し，児童文学の社会的役割の変遷を理解する。児童文学の様々なジャンルを学び,現代において子どもと本を繋げる役割を担う上での基本的知識と能力を獲得する。さらにブックトークやブッククラブ等，子どもの「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」への具体的な指導方法の実践と事例検討を通して，教諭・保育者として必要とされる知識や技能を身につける。

子どもと数 154

Math Activities for Children

「数（かず)」のもつ不思議さや美しさを感じる機会をもつと同時に，我々を取り巻く環境に「数」や「図形」とかかわる様々な世界があることに気づく。子どもと「数」の関係も，環境とかかわる中での体験を通して感じ取られていくことを理解する。

教育学概論 155

Introduction to Educational Thought

教育という営みを，私たちの成長や発達，生活のあらゆる側面と関係を持つ現象として多角的に理解するための観点を学びます。「教育とは何か？」，また「教育とはどうあるべきか？」という問いに対する唯一普遍の正解というものはありません。これらの疑問に対する答えは，教育や成長についての幅広い知識と，深い思索の中で一人一人が見出していくものです。この授業では教育という営みに関わるいくつかのテーマを取り上げ,それをもとに議論をします。提示されたテーマについて自らの経験を振り返って考えたり,簡単には応え難い問題を考えたりすることを通して,一人一人の教育や成長についての考え方を柔軟で,豊かなものにしていくことを目指します。

幼児の造形表現指導法 156

Teaching Methods: Art Expression

幼児が発達段階において造形表現の中で学ぶ大切な事と，指導者の幼児表現活動への関わり方について，模擬授業を通して考え取り組んでいく。

各自オリジナルなテーマを持った造形指導計画案を立案し，班単位でまとめ，模擬授業を実施し，相互評価を行う。

幼児の身体表現指導法 157

Teaching Methods : Physical Expression

言葉が未発達な乳幼児期は,身体表現は重要なコミュニケーション手段であることを理解し子どもの身体表現を読み取り，共感できる能力を養う。子どもの自発的は身体表現の可能性を開き,身体表現力を豊かにするための適切な指導・援助について学ぶ。幼児の身体表現の発達や学びの過程を理解し,幼児の主体的で対話的な深い学びを引き出すための具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

具体的な授業の進め方として，ひとつのテーマで2回完結とする。1回目は受講生が活動者となって参加する。2回目は受講生の中から指導者役，幼児役，観察者役にわかれ，模擬保育を実施し，活動終了後はそれぞれの立場から振り返り意見交換する。

幼児の音楽表現指導法 158

Teaching Methods: Music Expression

保育士あるいは幼稚園教諭として必要な幼児音楽教育理念，指導法，教材研究等について実践を通して学ばせる。子どもの音楽表現が，子どもと大人との相互コミュニケーションの中でどのように生起し,展開するかということについて構造的に理解させ,子どもの豊かな音楽表現の生成を促すために,保育者が如何に関わりうるか，ということについて，実践とVTR視聴を通して考えさせる。

幼児教育方法論 159

Kindergarten Education Methodology

幼稚園教育における環境の重視,また遊び中心の保育,そして生活を通しての保育という,幼稚園が目標とする基本を理解する。子どもたちにとって生活の中で最も良い時間帯を過ごす園は,安全で楽しい場である必要がある。子どもの主体性を尊重し自発活動を引き起こしていくには,子どもと深くかかわる保育者の保育観や保育環境構成によるところは大きい。園で遊ぶ子どもの姿をビデオ等の情報・映像機器の使用を通して，幼稚園教育の基本の理解を深めるとともに,具体的な子どもの姿を分析し幼児期の発達と遊びの重要性や保育の具体的な展開について保育者の望ましい教育方法を学ぶ。また，教育方法論を知るとともに,情報機器及び教材の活用や保育記録について実践を通して学んでいく。

幼児理解の理論と方法 160

Theory and Methods for Understanding Children

乳幼児期・児童期の子どもの心理とその発達，集団の中での関係性などを理解するための実践的な方法論を習得しながら,子どもについての理解を深める。同時に,将来,保育者あるいは親として子どもの気持ちや関係性等の適切な読み取り・判断・援助ができる知識と実践力が身につくよう指導する。心理学研究には様々な方法が,本授業では，特に，保育者に大切な子どもの心理や発達を的確にとらえる目を養うことを通じる観察法を中心に，観察演習を取り入れながら，方法，記録の取り方，観察からの考察，研究における倫理，聞く技法等について学ぶ。また，実習における参与観察をふまえ，フィールドでの参与の度合,観察記録時の留意点等についてもふれる。面接法や質問紙調査の技法についても理解を深め，技法が習得できるようにする。

教育相談 161

School Counseling

教育相談を行う上で必要な発達理論,子どもの理解の方法及び保護者への関わり方について,実践や事例研究を通して具体的に学ぶ。近年，教育・保育の現場において,「気になる子ども」に関する相談が多くなってきている。対応が上手く行われない場合，保護者も現場の担当者も子ども自身も困惑し,その子どもの発達に影響をおよぼすばかりでなく他の子ども達にも混乱が広がっている場合も少なくない。この現状を踏まえて，子どもや保護者への支援としての教育相談活動の意味について考え，子どもの状態像を把握する方法や，子どもや保護者への関わり方，教育相談を行う者の義務と責任，関係諸機関への連携について学ぶ。幼児期の教育相談だけでなく,生涯にわたって支援する視点とは何かについても考えていきたい。

幼稚園教育実習(1) 162

Practical Training in Kindergarten(1)

2年次の終わりに行う5日間の幼稚園教育実習(観察)である。観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して，教育者としての愛情と使命感を深め，将来教員となる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み，学校教育の実際を体験的・総合的に理解し,教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

幼稚園教育実習指導(1) 163

Guidance for Practical Training in Kindergarten(1)

幼稚園教育の現場で実習することを想定し,①幼稚園教諭の仕事内容とその意味,②子どもたちの姿を理解するための観察方法,③子どもたちとのかかわりの方法を学ぶ。その学びを基に，実習日誌に的確に記述する方法とその意味を理解する。さらに，指導計画の実際につい

て事例から学び,実習を想定して自ら指導計画を作成する。以上のことを通して幼稚園教諭の仕事，幼稚園在園児，幼稚園教育の役割を理解する。

幼稚園教育実習(2) 164

Practical Training in Kindergarten(2)

3 年次の終わりに行う 15 日間の幼稚園教育実習（責任）である。観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して,教育者としての愛情と使命感を深め,将来教員となる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み，学校教育の実際を体験的・総合的に理解し,教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

幼稚園教育実習指導(2) 165

Guidance for Practical Training in Kindergarten(2)

3 年次終了時に実施される「幼稚園教育実習(2)」(3 週間）のための事前・事後指導を行う。それぞれの課題について,学生が主体的に学ぶ姿勢を育てることを通して，幼稚園教諭としての基本的な構え，技能を身に着けることを目的とする。そのため，授業内容はできるだけ具体的であり,それぞれの学生が身を以て実践できるように演習形式を通して行う。特に，実習内容にかかわる教材研究については，5 領域を意識し幅広く研究し，保育へ応用する方法を具体的に学ぶ。さらに，実際の実習場面での子どもの反応を予測しながら,子どもの発達に沿った緻密な保育計画が立てられるようになることを目指す。

キャリアデザイン入門
（児童・青年期の心理とキャリア発達） 166

Introduction to Career Design

入門として,主に大学生が位置する青年期を中心に心身の発達の特徴を理解し,青年心理学および生涯発達の視点から進路･職業を含めたキャリアデザインについて考えていく。それには，まず，自己をよく理解しておくことが大切である。とくに，青年期は，大人社会への移行期にあたり，多くの問題にぶつかり，苦悩することが多い。ともすると，自己評価が低くなり，自信を喪失することもある。さまざまなテーマを取り上げながら，自分自身を省察し，ディスカッション，発表，ポートフォリオ等を通して，青年期の心理を理解することにより，自己理解，将来設計，および，親や大人を理解する一助となればと考える。また，自己成長の様相を知り，いろいろな問題や悩みについても一緒に考えていく。

キャリアデザイン(1) 167

Career Design(1)

キャリアデザインに必要な自己理解と社会環境の理解を，グループワーク，幼大連携行事への参加等を交えながら促進していく。また，人間科学部のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーにもとづき,社会人として，中でも保育・幼児教育・子どもに関わる職業に就く者として，求められるコミュニケーション力，読解力，臨機応変な行動力などの基本的なスキルについて，講義での解説とともに,グループワークなどの実施により実践的に習得の促進を図っていく。

キャリアデザイン(2) 168

Career Design(2)

就職活動を目前として,業種別エントリーシート作成,公務員試験対策の補い,幼大連携行事への参加等を交えながら,具体的目標に向かって本格的なキャリアデザインに取り組んでいく。人間科学部のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーにもとづき,社会人として,中でも保育・幼児教育・子どもに関わる職業に就く者として，求められるコミュニケーション力，読解力，情報活用力などの応用的なスキルを,講義及びグループワーク等の実施を通して，自分に定着させる。

インターンシップ(1)～(2) 169～170

Internship(1)～(2)

在学中に就業体験をすることで,自分の将来を見つめ,自己の適性を知り,将来の進路計画に役立てる有意義な機会とする。もとより大学における「講義・演習」,「実習及び実技」は，実社会で役立つことを想定して計画しているが，本科目はより実践的・具体的に実際の産業界における価値観や要求されることを獲得する機会とする。

幼児の生活と自然環境 171

Children's Life and Natural Environment

子どもは幼いころから五感を駆使して自然とかかわり，様々な発見をし，感動し，そのことをいろいろな方法表現し，そして成長していく。この授業では，将来幼児教育・保育に携わるとき，率先して自らが自然とかかわり，多様な発見をし，子どもと共に，様々な自然とのかかわりを体験できるようになることを目指した授業を行う。

海外研修 172

Study Abroad Program

オーストラリアのシドニー近郊にあるウーロンゴン大学における研修のための事前・事後指導を行う。さら

に，ウーロンゴン大学教育学部におてい，オーストラリアの幼児教育，保育教材，幼児教育施設研修の事前・事後の授業を受け，実際にオーストラリアの幼児教育施設での研修を行う。さらに，保育・幼児教育にかかわる英語の授業を受講する。オーストラリアの歴史と文化，先住民についての学ぶ。そして，ホームステイの経験を通して，オーストラリアについての理解を深め，外国人と英語でコミュニケーションする楽しさを体験する。事後指導として，オーストラリアでの体験を振り返り，成果を発表する。

子育て支援演習 173

Seminar on Child Rearing and Care Support

学内子育て支援センター「ぴっぴ」においての実習を自主的に行う。地域の子育て支援を実践的に学ぶ。実際に親子を観察し，親子と関わる実習をしていく。2年生から4年生にかけて，実習の課題を実行していくことで力ある地域の子育て支援者の養成をしていく。

食農文化と子育て(1) 174

Culture of Food and Farming for Child Care(1)

食農文化は，幼少期からの心の教育として重要であり，土づくりから収穫・利用まで，いのちを育み，利用する体験を通じて，共生，循環，多様性を実感することで，これを生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培うことができる。本授業では，食農文化に関わる基本を実践的に展開することで，知識と理解を深めていく。また，自らの積極的な労働を通し，作物を栽培する楽しさ，収穫の喜び，人間と自然との調和，自己の責任と他者への協力の姿勢の大切さを習得させる。

食農文化と子育て(2) 175

Culture of Food and Farming for Child Care(2)

食農文化は，幼少期からの心の教育として重要であり，土づくりから収穫・利用まで，いのちを育み，利用する体験を通じて，共生，循環，多様性を実感することで，これを生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培うことができる。本授業では，食生活の構造変化や乳幼児期の食環境や食育の歴史を学び，具体的な食育活動の実際を現場の栄養士から学び知識と理解を深めていく。また，自らの積極的な労働を通し，作物を栽培する楽しさ，収穫の喜び，人間と自然との調和，自己の責任と他者への協力の姿勢の大切さを習得させる。

児童学入門 176

Introduction to Child Studies

児童学で目標とするところを，児童学科の専門科目を担当する専任教員がそれぞれの専門分野の立場から明らかにしていくものである。児童学について，児童の福祉の視点からの児童福祉，児童の発達・心理の視点からの児童発達，児童の健康・保健の視点からの児童保健，児童（乳幼児を含む）の教育・保育の視点からの児童教育・保育，児童を取り巻くさまざまな文化の視点からの児童文化という５つの柱から構成されている学問領域であることの基礎を伝えるものである。その過程で，履修者の一人ひとりが児童学とは何かということ理解し，児童学科で学ぶことの意義を発見する。児童学の領域の広がりを理解し，児童理解を深め，柔軟な思考力を培う。

基礎ゼミ 177

Basic Seminar

大学において主体的に学び，自主的に研究する姿勢を育成するための，スタディスキルズの習得に取り組む。基礎学力としての受講の心得やノートテイク，資料整理法，文章作成能力と読解力のもととなる文章の要約と作文技法，問題解決能力に直結する研究課題の設定方法，資料収集力，資料分析力，プレゼンテーション能力を段階的に学ぶ。具体的には，研究倫理についての学びを踏まえ，「特別研究」「卒業研究」に繋がる身近なテーマを課題として設定し，資料調査を経て，レポートにまとめると共にパワーポイント等を用いて口頭発表するという一連の経過を体験的に学ぶ。

特別研究 178

Advanced Seminar

研究を行うための基盤となることを学ぶ。自ら興味と関心のあるテーマを模索し，テーマに関係のある指導教員の指導と助言を得ながら，文献研究，フィールド調査，実験等の研究方法や研究倫理について学ぶ。まず，資料の集め方を学び，実際に図書館やインターネットを使って，テーマにかかわる文献をできるだけたくさん集める。集めた文献を幅広く読み，自分の興味と関心がどこにあるかを探索する。テーマが設定されたら，集めた文献の中で先行研究にあたる文献を選択し，さらに最新の文献を探し，読みこみ，まとめ，研究室ごとにプレゼンテーションを実施する。

卒業研究 179

Graduation Studies

学生生活における学問研究の総まとめとして，「特別研究」の先行研究を基盤にして，自ら興味と関心のあるテーマを設定し，テーマに関係のある指導教員の指導と助言を得ながら，研究目的を明らかにし，研究方法を決定する。各自が計画したテーマについて，研究を実施す

る前に，研究の構想から調査の実施などについて中間発表会を各研究室に置いて実施する。研究の構想が決定したら，研究方法に従って，研究計画を立て，文献研究，フィールド調査研究，実験研究を行い，その成果を「卒業研究論文」としてまとめ，指導教官に提出する。また，研究の成果は，全員の学生が各研究室内の卒業論文発表会で発表するとともに，各研究室の代表者が卒業研究論文全体発表会等で発表する。各自の卒業研究論文概要は大学にて製本し，卒業研究論文と共に保存する。また「卒業研究概要データベース」を作成する。